

2025年度

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

事業報告

一般財団法人 大阪科学技術センター

目 次

2025 年度事業概況	1
-------------	---

【事業活動】

I 普及広報事業	2
II 技術振興事業	18
1. 技術開発委員会事業	
2. エネルギー技術対策委員会事業	
3. 中堅・中小企業技術振興委員会事業	
4. 地球環境技術推進懇談会事業	
5. 大阪科学賞	
6. 学協会の地域活動支援事業	
III ニューマテリアルセンター事業	29
1. 標準化事業	
2. 研究開発事業	
3. 材料技術振興基盤の整備事業	
4. 学協会の地域活動支援事業	
IV 地域開発促進事業	32
V ビル利用促進事業	34
VI 総合企画活動	38
1. 科学技術振興の基盤づくり	
2. 賛助会員対応活動	
3. 経営企画	

【総務事項】

I 総務事項	41
1. 会員の状況	
2. 役員等に関する事項	
3. 職員に関する事項	
4. 役員会等に関する事項	

2025年度事業概況

大阪科学技術センターは、科学技術の振興と産業の発展に向け各種事業に取り組んでいる。当財団をめぐる経営環境は厳しい状態が続いているが、新たな取り組みの推進による収益向上並びに効率的な業務遂行による経営基盤の強化に取り組んでおり、その成果が徐々に表れてきている。2025年度大阪科学技術館来館者数は過去最多の33万人を超える多くの方々にご来館いただいた。また、研究会活動においても、多様な業界から多くの方々に参加いただくなど、創意工夫により多くの事業を推進した。

事業活動の概要

各事業の推進にあたっては、事業分野ごとに設置した委員会等に産学官の各界の専門家を委員として迎え、意見を踏まえながら事業を計画立案し、実施した。

普及広報事業では、わが国の科学技術水準の向上に寄与すべく、次世代を担う青少年ならびに一般市民を対象に科学技術への理解を増進するため、「大阪科学技術館の展示・運営」と「出前授業等による科学広報活動」を両輪として活動し、事業を効果的に展開した。大阪科学技術館の展示・運営では、時代の変化や社会のニーズに合わせた特別展やイベント等を開催するとともに、館の社会的価値ならびに認知度の向上を図ることで、新たな分野の開拓を行った。また、科学広報活動では、企業・大学、教育機関等との連携を深め、事業内容の充実化や活動対象の拡大を行った。

技術振興事業においては、経済活性化につながる事業の拡充、新たなイノベーションシステムの創出、次世代の科学技術振興の原点となる人材育成支援など科学技術の振興に資する事業を積極的に展開した。大阪・関西万博が目指した持続可能な社会実現に向け、カーボンニュートラル社会のトランジション、超スマート社会を支えるフォトニクス技術、水素・バッテリーなどのエネルギー技術、サーキュラーエコノミーに関する最新動向をフォローするため、実証サイト視察、研究会、講演会・見学会を実施した。新たな取り組みとして、蓄電池産業の成長を支える電池診断技術に着目した研究会の立ち上げや大阪府の委託を受けた「CNビジネスベース拠点」の設置など、関連ビジネスの創出・情報発信の強化を行った。また、中堅・中小企業における技術振興と事業化支援では、経済産業省の補助事業である成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech事業）において国内最多レベルの計19件のプロジェクト管理を推進した。人材養成事業では、ものづくりにおけるAIなどのデジタル技術を実務レベルで活用するための研修を重点的に展開した。地域開発促進事業に関しては、国・地方自治体の計画や産業界ニーズに対応し、関西地域の活性化を推進、ポスト万博の都市空間戦略に関する公開シンポジウムを開催したほか、都市再生部会では、2050年を見据え新たな調査研究を開始した。

ニューマテリアルセンター事業では、国家施策に沿った事業として金属系新素材の評価試験方法の確立および標準化の促進とそれに関連する研究開発2件（Go-Tech事業）を推進した。

ビル利用促進事業では、収益増進を目的に貸会場の料金改定を実施した。しかし、オンライン式会議の定着化や法改正等による顧客利用形態の変化の影響もあり利用会議室の小規模化や利用件数の減少等により、収益増進には繋がらなかった。ビル改修工事においては、計画通り、着実に工事を実施した。

総合企画活動では、科学・産業振興に関する情報発信ならびに公益性の高い事業の実施状況についての情報発信を強化し、公益的活動に関する理解促進を図るとともに、会員同士の交流の場の提供、科学技術分野における顕彰の候補者推薦を行うなど、賛助会員の満足度向上に努めた。また、関係諸団体との連携においては、各団体の知見を当財団の取り組みに反映すべく、定期的な情報交換を実施した。

各事業の詳しい事業報告を次項以降に記す。

I 普及広報事業

わが国の科学技術水準の向上に寄与すべく普及広報事業では、次世代を担う青少年ならびに一般市民を対象に科学技術への普及啓発を目的とし、「大阪科学技術館の展示・運営」と「出前授業等による科学広報活動」の両輪で活動している。

大阪科学技術館の展示・運営では、2機関の新規出展ならびに、出展者の協力による2年に一度の展示改装を実施した。また常設展示に加え、実験・工作等のイベントを定期的に行うことで、次世代を担う青少年に科学技術や産業技術を体感する機会を設けた。

科学広報活動では、学校、教職員、一般市民等幅広い層を対象に、科学技術への関心を高めるべく出前授業・講座等を展開した。

2025年度は以下の項目について重点的に取り組んだ。

- ①大阪科学技術館については、新規出展を含めた第35回展示改装を実施し、多岐にわたる最新の科学技術・産業技術を発信するとともに、大阪・関西万博に関する特別展・イベント開催や社会ならびに出展者・来館者のニーズに対応した新規取り組みの検討を実施するとともに、広報活動の強化により、認知度の向上ならびに来館者増に努めた。
- ②科学広報活動については、企業・大学、教育機関等との連携を深めつつ、時勢に合わせた事業内容の充実化を図り、活動対象の拡大に努めた。

<委員会活動>

1. 普及広報委員会（産業界32名、団体10名：委員会2回、見学会1回）

・第95回普及広報委員会

日 時：2025年10月23日(木) 15:30～17:00

場 所：大阪科学技術センター 8階 中ホール、オンライン

議 案：2025年度上期普及広報事業報告について

2026年度大阪科学技術館展示事業協力金について

その他

・第96回普及広報委員会

日 時：2026年3月3日(火) 15:30～17:15

場 所：大阪科学技術センター 8階 中ホール、オンライン

議 案：2025年度普及広報事業報告について

2026年度普及広報事業計画について

その他

・見学会

月 日：2025年11月5日(水)～6日(木)

見学先：宇宙航空研究開発機構 筑波宇宙センター、(株)フジキン 万博記念 つくば先端事業所

産業技術総合研究所「地質標本館」および「AIST-Cube」

東京ドームシティ内「Space Travelium TeNQ」 「野球殿堂博物館」

参加者：10名

・特別視察

月 日：2025年12月4日(木)

見学先：NHK大阪放送局

参加者：12名

(1) 展示部会（産業界21名、団体7名：部会3回）

・第126回展示部会

日 時：2025年6月3日(火) 14:30～15:30
場 所：大阪科学技術センター 8階 小ホール、オンライン
議 案：2025年度(第35回)大阪科学技術館展示改装実行計画について
その他

・第127回展示部会

日 時：2025年10月21日(水) 15:30～16:45
場 所：大阪科学技術センター 8階 小ホール、オンライン
議 案：2025年度上期展示事業報告について
2026年度展示事業協力金について
その他

・第128回展示部会

日 時：2026年2月26日(木) 15:30～16:45
場 所：大阪科学技術センター 8階 小ホール、オンライン
議 案：2025年度展示事業報告について
2026年度展示事業計画について
その他

・見学会

月 日：2025年11月13日(木)・14日(金)
見学先：札幌市青少年科学館、サッポロビール博物館、
ロイズカカオ&チョコレートタウン、エスコンフィールド北海道
参加者：8名(11月13日(木))、9名(11月14日(金))

(2) 広報部会 (産業界8名、団体1名：部会2回)

・第99回広報部会

日 時：2025年10月10日(金) 16:00～16:45
場 所：大阪科学技術センター 6階 601号室、オンライン
議 案：2025年度上期広報事業報告について
その他

・第100回広報部会

日 時：2026年2月20日(金) 11:00～11:45
場 所：大阪科学技術センター6階 603号室
議 案：2025年度広報事業報告について
2026年度広報事業計画について
その他

(3) エネルギー広報対策特別部会 (産業界6名、団体2名：部会2回、見学会1回)

・第91回エネルギー広報対策特別部会

日 時：2025年10月7日(火) 16:00～17:00
場 所：大阪科学技術センター 4階 402号室、オンライン
議 案：2025年度上期エネルギー広報事業報告について
その他

・第92回エネルギー広報対策特別部会

日 時：2026年2月16日(月) 14:30～15:30

場 所：大阪科学技術センター 7階 703号室、オンライン

議 案：2025年度エネルギー広報事業報告について

2026年度エネルギー広報事業計画について

その他

・見学会

月 日：2025年5月15日(木)～5月16日(金)

見学先：沖縄美ら海水族館、北谷海水淡水化センターおよび浄水場、ぬちまーす製塩ファクトリー

参加者：7名

<活動内容>

1. 大阪科学技術館の企画・運営

本年度は2年に一度の展示改装年にあたり、出展機関のご協力により第35回展示改装を実施するとともに、あらたに2機関の新規出展を迎え、科学技術の次代を担う青少年をはじめ一般市民を対象に、出展機関の取り組む先端技術ならびに科学技術、産業技術の果たす役割について展示公開を行った。

また、出展機関ならびに連携機関等のご協力による活動基盤の強化のもと、2025年大阪・関西万博に関する特別展・イベント開催や社会ならびに出展者・来館者のニーズに対応した新規取り組みの検討を実施するとともに、Osaka Metro中央線本町駅での車内放送等の広報活動ならびに報道機関等への情報発信を強化し、当館の認知度の向上を図り、来館者増ならびに新規出展機関の誘致に繋げた。

(1) 展示活動

① 大阪科学技術館 統一テーマ

「好奇心をカタチに！科学技術で創造する未来」 (6月まで)

「ふれる！ひろがる！ココから始まる未来のとびら」(7月より)

② 大阪科学技術館愛称

「てくてくテクノ館」

③ 開館時間、休館日

開館時間 平日・土曜 10:00～17:00、日曜・祝日 10:00～16:30

休 館 日 ・定期休館(第1・3水曜日)

4月16日(水)、5月7日(水)、21日(水)、6月4日(水)、18日(水)、

7月2日(水)、9月3日(水)、17日(水)、10月1日(水)、15日(水)、

11月5日(水)、19日(水)、12月3日(水)、17日(水)、1月21日(水)、

2月4日(水)、18日(水)、3月4日(水)、18日(水)

・展示改装による休館

7月7日(月)～16日(水)

・特別休館

9月1日(月)、2日(火)

・冬期休館

12月27日(土)～1月4日(日)

・ビルメンテナンスによる休館

4月6日(日)、29日(火・祝)、5月3日(土・祝)～6日(火・休)、6月1日(日)、

10月5日(日)、11月23日(日・祝)

④2025 年度展示テーマおよび出展機関名

出展者数 21 社 8 団体 28 ブース

	展示テーマ	出展機関
1	コネクト・ザ・ワールド ～通信が世界をつなぐ、未来へつなぐ～	株式会社オプテージ
2	エネルギー・チャレンジ・ツアー エネッチャ!	関西原子力懇談会 関西電力株式会社
3	Starship Journey 見えないものを見る力。	非破壊検査株式会社
4	鉄のできるまで	日本製鉄株式会社
5	見つけよう!環境とエネルギーの“いま”と“みらい”	大阪ガス株式会社
6	アドベンチャートリップ ～かなでびやんと一緒に島を救おう!～	株式会社カナデビア
7	地球にやさしい環境技術～ごみは貴重なエネルギー～	株式会社プランテック
8	3億年前から存在する魚「チョウザメ」	株式会社フジキン
9	つくって、まなぼう!みんなのまちとくらし	株式会社大林組
10	「はかる」と「わかる」	株式会社堀場製作所
11	「まさつ」の謎にせまれ!～めざせ、ベアリングマスター～	NTN株式会社
12	リサイクルDISCO	三菱電機株式会社
13	宇宙への挑戦～未知なる世界を解き明かそう!～	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構
14	海から地球を探る	国立研究開発法人海洋研究開発機構
15	金型の世界～全ての製品は金型から作られる～	一般社団法人日本金型工業会
16	街を守れ!カミナリバスターズ	音羽電機工業株式会社
17	LEDって何だろう?	利昌工業株式会社
18	エネルギー情報コーナー	一般財団法人大阪科学技術センター
19	ワイヤレス充電が描く未来社会	株式会社ダイヘン
20	幸せな未来をひらく、SDGs と国際協力	独立行政法人国際協力機構
21	くらしに役立つ水素のチカラ	岩谷産業株式会社
22	まちづくりが紡ぐわたしたちの未来	株式会社竹中工務店
23	水素を使った新しいエネルギー社会	株式会社東芝
24	安心して快適な家のヒミツ	大和ハウス工業株式会社
25	Nature Contact～みんなで地球の未来を考えよう! (3月3日まで) Mirai Arcade ～今からキミは未来クリエイター! (3月20日より)	株式会社日立製作所
26	原子力図鑑～小さな原子が持つ力を学ぼう～	国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構
27	ホアンくんと探そう 電気のキケン	一般財団法人関西電気保安協会
28	ひとかがく研究所	パナソニックホールディングス 株式会社

○VICS ドライブ・シミュレーターの設置（1階）

VICSセンターからカーナビゲーションに素早く送られる渋滞や交通規制情報を受信しながらドライブ体験できるシミュレーターの設置

（協力：（一財）道路交通情報通信システムセンター（VICSセンター））

○テクノ☆情報広場の設置（1階正面入口）（2階）

企業・大学・研究機関・団体等のさまざまな情報や取り組み等を動画等で紹介

出展機関：（株）クボタ、（公財）原子力安全技術センター、産業技術総合研究所 関西センター、電磁界(EMF)に関する調査研究委員会、白光(株)、浜松ホトニクス(株)、（株）MC&P(10月14日(火)～12月14日(日))

○家庭薬等に係わる「薬育」啓発コーナー（2階）

協賛：大阪家庭薬協会、小林製薬(株)、丹平製薬(株)、常盤薬品工業(株)、森下仁丹(株)、横山製薬(株)、ロート製薬(株)

⑤開館日数

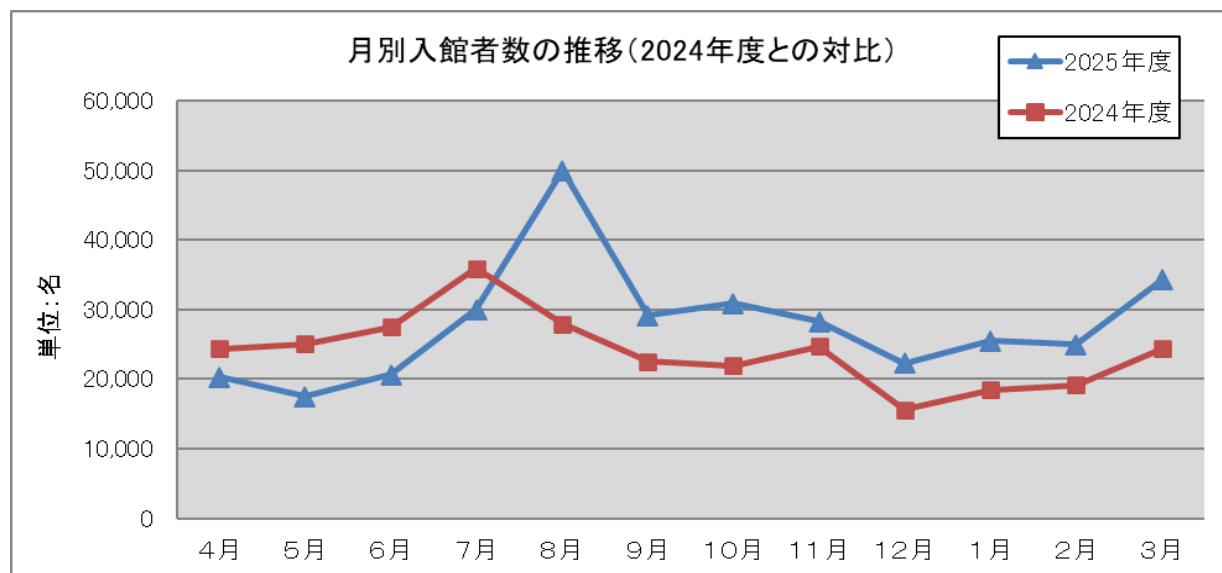
	2025年度	2024年度
平日開館日数	213日	221日
休日開館日数	103日	101日
計	316日	322日

⑥入館者数

	2025年度	2024年度
一般見学者	320,123名	272,305名
団体見学者	13,682名	15,382名
計	333,805名	287,687名
(1日平均)	1,056名	893名

⑦月別入館者数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2025年	20,313	17,478	20,625	30,057	50,036	29,195	30,881	28,256	22,252	25,478	24,978	34,256	333,805
2024年	24,350	25,043	27,505	35,963	27,939	22,585	21,954	24,757	15,599	18,484	19,157	24,351	287,687



(2) 第 35 回大阪科学技術館展示改装

①改装率：46.4%

- 新規出展 2 ブース(大和ハウス工業(株)、(株)竹中工務店)
部分改装 11 ブース((一財)大阪科学技術センター、大阪ガス(株)、(株)オブテージ、カナデビア(株)、関西原子力懇談会・関西電力(株)、(一財)関西電気保安協会、(独)国際協力機構 関西センター、(株)ダイヘン、日本原子力研究開発機構、パナソニック ホールディングス(株)、利昌工業(株))

②改装披露

日 時：7月16日(水) 10:30~13:00
場 所：大阪科学技術館、大阪科学技術センター 4階・8階
プログラム：・記者発表(12社14名)
・テープカット
・改装披露
・祝賀会

参加者：203名

③改装記念イベントの実施

特別展「2025年大阪・関西万博で見た未来社会がやってきた！」
夏休みイベント

④設備等の充実

ホームページ改訂(スマートフォン対応)
館内共用部分ならびに外壁看板の改修

(3) 来館者サービス活動

①団体見学者対象

1) 団体見学入館者状況

<累計>

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
2025	件数	18	28	40	25	42	24	37	41	32	30	39	33	389
	人数	651	955	1,376	671	771	926	1,844	2,010	1,427	1,044	1,081	926	13,682
2024	件数	13	43	50	36	24	22	26	54	15	28	27	25	363
	人数	633	2,387	2,448	832	575	978	1,469	2,736	736	1,039	843	706	15,382

2) 団体見学コースの実施件数および内訳

- ・見学コース(Aコース) 327件
- ・映画コース(Bコース) 16件
- ・講座コース(Cコース) 3件

○9月24日(水) 長岡工業高等専門学校

テーマ：「AIの基礎と東芝でのAI活用事例」

講師：(株)東芝 総合研究所 AI デジタル R&D センター アナリティクス AI 研究部

スペシャリスト 古庄 泰隆 氏

○11月26日(水) 埼玉県立久喜工業高等学校

テーマ：「資源循環に向けた取り組み」

講師：カナデビア(株) 環境事業本部 インキュベーション推進部
企画グループ長 宇志呂 将 氏
企画グループ 林 翔太 氏

○2月12日(木) 長崎工業高等学校

テーマ：「エネルギーについて」

講師：関西電力(株) 広報室 エネルギー広報グループ 北村 啓裕 氏

・科学実験コース (Dコース) 43件

(内訳)

電気のコース part 1	0件	極低温の世界コース part 1	22件
電気のコース part 2	0件	極低温の世界コース part 2	0件
空気のコース	1件	力のコース	0件
波のコース	0件	放射線のコース	3件
たのしい電気の工作教室	17件		

(協力：(一財)関西電気保安協会)

3) 調べ学習として、ワークシートを作成し、館内設置ならびにホームページ掲載

②一般見学者対象

1) インフォメーションサービス

- ・科学館催事を中心とした情報提供を行う「館情報提供モニター」の設置
また、ワークシートやパンフレットの自由配布等による情報提供
- ・「テクノくんの健康くらぶ(体力測定ロボット)」の設置(1・2階)
館内巡回ツールとして、身長・体重・バランス感覚・敏捷性・握力・ジャンプ力を測定し、体力年齢を診断するロボット6台を設置
- ・展示ブース内での、QRコードによる英語・韓国語・中国語案内ならびに情報提供モニター
「もっとリサーチ! パネル」(2ヶ所)の設置
出展機関の展示補完情報を映示するモニターを設置。過去の展示内容や外国語(英語・中国語・韓国語)での案内や各出展機関のトピックス情報を提供
- ・歴史パネル「新技術への挑戦」の設置(出展コーナー、1・2階展示ブース設置補完情報提供モニター内)(6月まで)
出展機関の技術開発のエピソードや開発の歴史の紹介
- ・プラナリア観察コーナーの設置(1階)
「プラナリア」を観察できるコーナーを1階インフォメーションコーナー前に設置
- ・「大阪科学技術館来館記念スタンプ」の設置
- ・「出展機関のスタンプを集めよう!」(3月25日～)
各出展機関のスタンプをブースに設置
- ・スタンプ(ポイント制)カードの配布とコレクターバッジの作成
リピーター増を目的に、スタンプカードを来館者に配布。テクノくんをデザインしたコレクターバッジ(テーマイラスト、温泉テクノくん、ブロックテクノくん)を作成し、5回ご来館いただいた方に進呈
- ・「てくてくラリー」の設置(1・2階)
館内に3つのパネルクイズを設置し、全問正解するとリーフレットにスタンプを押印。クイズは

季節ごとに変わり、4つの季節すべてのスタンプがたまとノベルティを進呈。達成者の写真を館内に掲示

- ・「テクノくん顔出しパネル」の設置（1階リフレッシュスペース）
記念撮影用として「テクノくん顔出しパネル」を設置
- ・来館者記念物販コーナーの設置（1階リフレッシュスペース）
マルチスタンド、レインポンチョ、折りたたみシリコンボトル、ガジェットポーチ、スタンプ帳等のカプセルトイ販売機の設置
- ・見学順路、ブース表示灯の設置
館内床面に基本順路を表示。また、出展内容の技術を5つに分類し、色分けした床面シール、表示灯を設置
- ・授乳室の設置、車イス・ベビーカーの貸出
来館者サービスとして、授乳室の設置と車イス・ベビーカーの貸出
- ・出展機関の各種パンフレット等の配布
- ・サイエンス・ボランティアによる館内案内、簡単工作等の実施

2) 出展者情報コーナーの設置（壁新聞の掲示ならびに配布）

<出展機関の取り組み等を紹介する「てくてくテクノ新聞」の作成ならびに配布>

- ・Vol. 58 岩谷産業(株)「暮らしを運ぶエネルギーの素 水素」
- ・Vol. 59 大和ハウス工業(株)「安全・安心の住まいとは」
- ・Vol. 60 (株)竹中工務店「なにわのシンボル『通天閣』を免震展望タワーに」
- ・Vol. 61 パナソニック ホールディングス(株)「ノビテックってなに？野菜づくりの新しい力」

<来館者向け参加型イベント等の実施>

- ・「卒園・卒業」「入園・入学」お祝いカードの募集と掲示（4月）（226名）
- ・「令和7年『宇宙の日』記念 全国小・中学生作文絵画コンテスト」の募集（7月～9月）と大阪科学技術館賞の展示（12月～3月）
- ・「テクノくんへ年賀状を出そう」の募集（1月）と掲示（1月～2月）（205名）
- ・「卒園・卒業」「入園・入学」お祝いカードの募集と掲示（3月～）

3) 「テクノくんワークショップコーナー」の設置（2階）（6月まで）

日曜開館時などに、サイエンス・ステージ（実験）や工作などを実施

- ・「令和7年『宇宙の日』記念 全国小・中学生作文絵画コンテスト」の募集と大阪科学技術館賞の展示（4月～6月）

4) 「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)紹介広場」の設置（2階）（6月まで）

「テクノくんワークショップコーナー」（7月より名称変更）

2025年大阪・関西万博について、壁面では概要、また床面では鳥瞰図を紹介、関連パンフレットの設置、また大阪科学技術館出展者および万博協会の関連映像の放映、ポスター掲示

- ・科学関連書籍等の設置
「子どもの科学」、「Newton」、「朝日小学生新聞」等
- ・期間限定展示（9月23日（火・祝）～27日（土））
SIP/BRIDGE 未来の科学フェス「未来をつくる“チカラ”に出会う日。」
バーチャルSIP 未来体験ラボ（主催：内閣府）
- ・「まだ見れる！学べる！大阪・関西万博」（2025年11月～2027年6月（予定））
協 力：大阪ガス(株)、関西電力(株)、関西電力送配電(株)、電気事業連合会、(公社)2025年日本国際博覧会協会、(一社)日本ガス協会、

培養肉未来創造コンソーシアム、パナソニック ホールディングス(株)、
(一財)関西イノベーションセンター(MUIC Kansai)、利昌工業(株)

5) 「サンデー・サイエンス・スペシャル (実験・工作等) 」の実施

件数：29 件

6) 春イベントの実施

期 間：4月1日(火)～5日(土)

参加者数：5,460名 (期間中来館者数)

内 容：見学会、実験教室等

7) 夏休みイベントの実施

期 間：7月19日(土)～8月31日(日)

参加者数：74,906名 (期間中来館者数)

内 容：サイエンス・ステージ、実験・工作教室、お話し会、ワークショップ、
クイズラリー等

協 力：【クイズラリー】

NTN(株)、大阪ガス(株)、音羽電機工業(株)、海洋研究開発機構、
カナデビア(株)、関西原子力懇談会、(一財)関西電気保安協会、
(一財)道路交通情報通信システムセンター、日本原子力研究開発機構、
パナソニック ホールディングス(株)、非破壊検査(株)、(株)フジキン、
ポッカ・サッポロフード&ビバリッジ(株)、(株)堀場製作所

8) 冬イベントの実施

期 間：12月14日(日)～1月12日(月・祝)

参加者数：22,456名 (期間中来館者数)

内 容：サイエンス・ステージ、実験教室、工作教室、ワークショップ等

9) 春イベントの実施

期 間：3月15日(日)～31日(火)

参加者数：24,202名 (期間中来館者数)

内 容：サイエンス・ステージ、実験教室、工作教室、ワークショップ等

10) 特別展の実施 (科学技術や時世に関するトピックス等)

- ・「韮公園の自然と歴史、そして未来へ2025『いのちの森・生物多様性公園をめざして』
～韮公園 開園70年、大阪・都心の貴重な自然～」

(4月14日～7月5日)

協力：韮公園自然研究会

- ・「2025年大阪・関西万博で見た未来社会がやってきた！」

(7月17日～2026年3月8日)

共 催：(株)りそな銀行

協 力：(株)イムノセンス、(株)オルコア、栗原木工(株)、(株)たにぐち、
(株)TI plus ホールディングス、(有)古谷商店、ポニー工業(株)、
モアコスメティックス(株)

(4) 見学者誘致活動

① アンケートの実施

- 1) 来館者を対象としたアンケートを行い、館の感想やニーズ等を調査

期 間：7月19日(土)～8月31日(日)

回答者数：青少年 1,959 名、大人 559 名

2) 団体見学引率者を対象としたアンケートを行い、館へのニーズや科学実験、講座、映画のコースへの要望等を調査

期 間：4 月～3 月

回答者数：151 件

②催事開催時におけるパンフレット・リーフレットの配布（約 7,800 部）

たのしい理科実験、エネルギー教室、特別出前教室等の実施の際に、パンフレット・リーフレットを広く配布し、科学館の知名度向上を図った。

③団体見学者誘致

1) 校外学習および修学旅行見学の誘致

学校や旅行会社等に、パンフレット、リーフレット等を送付 2,676 件

2) ホームページでの誘致

団体向けの見学コースをホームページ上で案内 (<https://www.ostec.or.jp/pop/>)

3) パンフレット・リーフレットの館内設置、配布

④一般見学者誘致

1) ホームページでの誘致

イベント情報や壁新聞を掲載し、「テクノくん日記」においては、イベント開催告知等の情報を随時更新 (<https://www.ostec.or.jp/pop/>)

2) 各出展ブースの 3D+VR 映像公開（6 月まで）

3) 大阪科学技術館名誉館長テクノくんの SNS

「X(旧 Twitter) (https://twitter.com/osaka_technokun/)」、

「Instagram(https://www.instagram.com/Osaka_technokun/)」、

「Facebook(<https://www.facebook.com/technokun/>)」、

「YouTube(<https://youtube.com/channel/UCSdJn61Wri9n8kh5owrbjrA/featured>)」

にて、大阪科学技術館ブース紹介・クイズ、「ちょこっと実験」、イベント紹介等更新

4) センタービル内 5 カ所に PR パネルの設置（8 階、4 階、地下 1 階）

5) PR サイン等の設置

- ・サインボードの設置（駐車場北側）
- ・サイン付街灯の設置（駐車場入口南側）
- ・ソーラーサインボードの設置（駐車場入口北側）
- ・壁イメージサインの設置（ビル東側外壁面）
- ・1 階、2 階北側シャッター面のイメージサインの設置
- ・大阪科学技術館とテクノくんのサイン設置（屋上西側）
- ・大阪科学技術館サインの設置（ビル 1 階西南側、西北側）
- ・大阪科学技術館サインの設置（ビル西南側外壁面 2 階～3 階）
- ・大阪科学技術館箱文字サインの設置（2～3 階間南側壁面）
- ・テクノくんモニュメントの設置（1 階ピロティ）

6) Osaka Metro 四つ橋線本町駅構内 2 カ所および肥後橋駅 1 カ所に大阪科学技術館広報看板掲示

*有料広告

7) Osaka Metro 中央線（本町駅）車内放送広告(2025 年 2 月～11 月) *有料広告

8) 大阪市広告付き観光案内板「MEDIA GUIDE」市内 9 カ所掲出（7 月 21 日～8 月 24 日）

9)館パンフレット・リーフレット、ちらし等、配布・設置（科学館、博物館、区民センター、集客施設、宿泊施設等、計499カ所）

10)テクノくん着ぐるみの活用

夏休み・冬イベント等にテクノくんが登場し、来館者を歓迎。また、大阪科学技術館のオリジナルカレンダーを作成した。

11)テレビ、新聞、雑誌等マスメディアによる広報

＜テレビ・ラジオ放送等＞ケーブルテレビの情報番組で1回放送

＜新聞掲載記事＞大阪科学技術館のイベント情報などが新聞記事に22回掲載

＜雑誌・広報誌等＞地域広報誌、情報誌などに計12回掲載

＜インターネット＞Osaka Metro、じゃらんnet、大阪観光局Webサイト、JRおでかけネット等のウェブサイトに掲載

12)全国科学館連携協議会への参加

全国科学館連携協議会からシンポジウム、研修等の情報提供を受けるとともに連携強化に努めた。

- ・総会 6月10日(月) 他館の活動状況等、取り組みなどの情報を収集
- ・近畿ブロック大会 9月4日(水)、5日(木)、2月6日(金)

(5)大阪科学技術館の案内リーフレット・パンフレットの制作

館案内リーフレット、パンフレットを制作した。

(6)館の防犯・警備・安全の強化

館内全域に防犯カメラを設置し、事故防止及び警備体制ならびに安全確保を図った。またハードディスクによる館内画像記録を行った。

(7)地域共生活動・協力事業等

大阪市高速電気軌道(株)(Osaka Metro)との連携イベントへの参加や、出展機関および近隣施設において実験・工作教室等を実施した。また、2025年日本国際博覧会「電力館 可能性のタマゴたち」パビリオン野外ステージにて実験ショーを実施し、国内外の方へ大阪科学技術館を紹介した。

2. 広報事業

科学技術への関心を高めると同時に、正しい知識の普及広報を行うべく、継続して実施している青少年をはじめ、一般市民や地域団体などを対象とした講座、実験、工作教室等に加え、新たな参加者獲得に向けて、理科教育に携わる教育機関等との連携を深めながら、幅広い層が興味を持って参加できる事業を企画・実施した。

(1)青少年対象活動

①サイエンス・メイト事業

1)組織の拡充

サイエンス・メイト活動として、大阪科学技術館等において実験教室・キャンプ等を行うとともに、大阪科学技術館イベントならびに館内での案内展示、サイエンス・メイトホームページ等による募集広報を行った。

・会員数 1,424名(新会員511名) ※昨年度1,075名(新会員351名)

2)行事活動

・電子工作ラボラトリー「地上を走る船 ホバークラフト」

参加者33名

- ・バイオ実験教室「化学の力で色変わり！カラーマジックケーキ」 参加者 24 名
- ・夏キャンプ「SHIGA 大作戦」 参加者 33 名
- ・自然観察会「淀川で生き物ウォッチング&水質調査」 参加者 17 名
- ・アフター万博アップサイクルイベント「万博好き集まれ！万博での思い出を形に残そう
☆アップサイクル体験ワークショップ」 参加者 59 名
- ・親子見学会「京都市動物園&蹴上発電所」 参加者 9 名
- ・お話実験教室「気象予報士さんの楽しいお天気講座 雪の結晶を作ってみよう」 参加者 49 名
- ・サイエンス・クッキング「ハリネズミのスイートポテトとふしぎなサツマイモ実験！」
参加者 37 名
- ・実験教室「自分の触覚をとらえよう！～1か所？2か所？どのように感じるかな？～」 参加者 45 名

②助成金制度の活用

(公財)東京応化科学技術振興財団「第20回科学教育の普及・啓発助成」の助成を受け、科学技術週間行事イベント「サイエンス・メイトフェスティバル」を行った。

- ・科学技術週間行事イベント

「サイエンス・メイトフェスティバル2025」 参加者3,311名

③特別支援学校等での出前実験教室「おもしろい！なんでだろう？サイエンス・ラボ」の実施

関西地域を中心にした聴覚支援学校・盲学校ならびに病院等へ状況に応じ、出前実験教室または遠隔授業、教材提供を行った。

- ・実施地域：大阪市、堺市、神戸市、京都市、大和郡山市（5地域）
- ・実施数：17校（22講座）
- ・参加者：児童・生徒194名、教職員188名、保護者12名 計394名
- ・協賛：かるがも基金（ロート製薬(株)）、住友電気工業(株)、(株)モリタホールディングス、
（一社）日本補聴器販売店協会近畿支部
- ・協力：大阪府教育委員会、大阪教育大学

④「宇宙の日」記念行事 全国小・中学生 作文絵画コンテストにおける賞の選定、授与および作品展示

主催：国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、公益財団法人日本宇宙少年団

後援：文部科学省、内閣府宇宙開発戦略推進事務局

協力：宇宙なんちゃらこてつくん、鹿児島県

- ・大阪科学技術館賞の選定

9月12日の「宇宙の日」を含む9月上旬から10月上旬までの「『宇宙の日』ふれあい月間」で開催される行事の一環として行われた作文絵画コンテストにおいて、大阪科学技術館へ応募された作文・絵画について、当館において大阪科学技術館賞の入賞作品(最優秀賞、優秀賞、佳作)を選定し、表彰式ならびに作品展示を行った。

- ・テーマ

「月面都市 —みんなが想像する自由な未来—」

- ・大阪科学技術館賞 表彰式の開催

月 日：2025年12月14日(日)

出席者：作文・絵画の部 最優秀賞、優秀賞受賞者 計9名

- ・大阪科学技術館賞の作品展示

期 間：2025年12月14日(日)～2026年3月31日(火)

⑤大阪府学生科学賞における賞の授与

(主催：大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会、大阪府科学教育振興委員会、読売新聞大阪本社)

学生科学賞への応募の中より最優秀賞 大阪科学技術センター賞に3点が選ばれた。

⑥特別出前科学教室の実施

- ・実施地域：大阪市、島本町、羽曳野市、尼崎市、西宮市、敦賀市（6地域）
- ・実施数：9か所(18講座)
- ・参加者：1,584名

⑦大学生等実習生の受け入れ・指導

大阪教育大学が行う教育施設等での教育協働体験学習にて、当財団職員指導のもと、青少年科学クラブ「サイエンス・メイト」での実験・工作の指導補助を行った。

実習期間：2025年3月～9月(計30時間程度)

実習生：5名

(2)一般市民対象活動

①特別出前講座の実施

- ・実施地域：東京都（1地域）
- ・実施数：1か所
- ・参加者数：28名

②LSS（レディース・サイエンス・セッション）の開催

1)LSS委員会

- ・第1回委員会

日時：2025年5月28日(水) 10:30～12:00

開催場所：大阪科学技術センター 4階 403号室

議題：2025年度LSS「サイエンスカフェ」の具体的な進め方について
その他

- ・第2回委員会

日時：2026年1月19日(月) 10:30～12:00

開催場所：大阪科学技術センター 6階 601号室

議題：2025年度LSS活動報告について
2026年度LSS活動計画について
その他

2)LSSサイエンスカフェの開催

技術者の視点から見た笑顔の定義・基準や、落語家の経験をもとにした「笑い」への見解など、私達を元気にしてくれる「笑顔・笑い」について、科学技術と落語2つの視点から紹介した。

月 日	内 容	参加者数
10月18日(土)	第25回 LSSサイエンスカフェ 「笑いのサイエンス ～科学技術と落語で解き明かす“笑顔”のチカラ～」 ○講演1：「笑顔あふれる未来社会を支える“ひと理解”技術」	143名 (内訳) 来場

	<p>講師：パナソニック ホールディングス(株) 技術部門 プロダクト解析センター デバイス・空間ソリューション部 瀧本 亜紀子 氏</p> <p>○講演2：「落語でわかる！笑いの秘密」 講師：落語家 桂 文華 氏</p> <p>○パネルディスカッション ファシリテーター：中館 聡子 氏（読売新聞大阪本社 プロモーション統括本部 わいず倶楽部 幹事） 藤井 律子 氏（大阪公立大学 人工光合成研究センター 准教授）</p> <p>○体験・パネル展示 ・「笑顔の測定」体験 ・パネル展示 協賛：大阪ガス(株)、(株)大林組、カナデビア(株) 協力：サントリーホールディングス(株)</p>	<p>120名 オンライン 23名</p>
--	--	---

③科学技術週間行事

1) 「一家に一枚」ポスターの配布

毎年文部科学省が発行する「一家に1枚」ポスターを、4月14日(月)より配布した。

<テーマ> 「量子と量子技術～量子コンピュータまでの100年！～」

2) サイエンス・メイトフェスティバル2025（再掲）

3. エネルギー広報活動

エネルギーに関する意識喚起、理解増進活動を図るべく、次世代層や教職員等を対象に、カーボンニュートラル・グリーントランスフォーメーション等の我が国のエネルギー政策を始め、時勢に応じた適切な情報を提供している。また、国等の委託事業の受託実績を踏まえ、各層・地域に応じた、エネルギー理解促進事業に資する新規事業の模索を図った。

(1) 意見交流活動

①企画立案検討会

・第74回企画立案検討会

日時：2025年10月7日(火) 14:30～15:30

場所：大阪科学技術センター 4階 402号室

議案：2025年度上期エネルギー広報事業報告について

その他

・第75回企画立案検討会

日時：2026年2月16日(月) 13:00～14:00

場所：大阪科学技術センター7階 703号室、オンライン

議案：2025年度エネルギー広報事業報告について

2026年度エネルギー広報事業計画について

その他

・見学会

日時：2025年9月9日(火)～10日(水)

見 学 先 : JAXA 能代ロケット実験場、東北電力(株) 能代火力発電所、石油資源開発(株) 申川鉱場、
秋田洋上風力発電(株) 秋田港洋上風力発電所

参 加 者 : 8 名

②エネルギー懇談会

日 時 : 2026 年 2 月 16 日(月) 16:00~17:30

場 所 : 大阪科学技術センター7 階 702 号室、オンライン

講 演 : 「分散電源の安定運用を支えるサイバーセキュリティ技術」

パナソニック ホールディングス株式会社 技術部門 DX・CPS 本部

デジタル・AI 技術センター セキュリティソリューション部 一課

課長 氏家 良浩 氏

「ガラス建材一体型ペロブスカイト太陽電池」

パナソニック ホールディングス株式会社

技術部門 ペロブスカイト PV 事業推進室 事業開発課

課長 中村 雄志 氏

参 加 者 : 22 名

(2) ニーズに合わせたエネルギー情報の発信、提供活動

①エネルギー教室検討会

理科ならびに社会科の教職員をはじめ、教育現場の意見を取り入れ、新たな実施内容の構築に向け実施した。

1) 第 38 回エネルギー教室検討会

日 時 : 2026 年 2 月 6 日(金) 18:30~19:30

場 所 : 大阪科学技術センター4 階 403 号室

議 案 : 2025 年度「エネルギー・環境出前教室」の事業報告について
2026 年度「エネルギー・環境出前教室」の事業計画について
2026 年度エネルギー教室、ティーチャーズスクールの募集について
その他

②小学校での活動（「たのしい理科実験」の実施）

理科を切り口にエネルギーや地球環境に関して、実験や体験を通して楽しく正しく理解することを目的とした、移動科学教室「たのしい理科実験」を実施した。

- ・実施地域 : 枚方市、大阪市、堺市、神戸市
- ・実 施 数 : 16 校(48 講座)
- ・参 加 者 : 児童 2,509 名、教職員 181 名 計 2,690 名
- ・後 援 : 堺市教育委員会、神戸市教育委員会
- ・協 力 : 枚方市教育委員会、大阪市小学校教育研究会 理科部
- ・テ ー マ : 「エネルギーのひみつを探れ!!」

○実験・実演

- ・電気に関する発見・発明の解説(エジソン電球の実験、アルキメデスの光線銃)
- ・発電のしくみの解説(簡易型火力発電実験装置で、蒸気発電の仕組みについて解説)
- ・地球環境問題、エネルギー事情の解説
- ・新技術の解説(特斯拉コイル放電実験)
- ・省エネ技術の解説(自分たちで取り組める省エネの解説、静電気の蓄電実験)

- ・電球の見分け方の解説(分光シートを使ったカードの配布)

○おまけ実験

- ・巨大空気砲の実験

③中学校等での活動（「エネルギー教室」の実施）

未来を担う青少年に、環境やエネルギー問題に対する興味と正しい知識をさまざまな形で提供することを目的に、体験型授業として「エネルギー教室」を各学校にて実施した。

- ・実施地域：大阪市、河内長野市、東大阪市、神戸市、尼崎市、三木市、京都市、福知山市、舞鶴市、宮津市、生駒市、高島市
- ・実施数：25校（67講座）
- ・参加者：児童277名、生徒1,695名、教職員117名 計2,089名
- ・後援：大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会、神戸市教育委員会、尼崎市教育委員会、伊丹市教育委員会、京都市教育委員会、奈良市教育委員会、生駒市教育委員会、国立大学法人大阪教育大学
- ・協力：枚方市教育委員会

④教職員向け活動（「ティーチャーズスクール」の実施）

教職員の方に環境やエネルギーについて、より高い関心をお持ち頂き、児童・生徒たちの興味を一層引きつける授業を実施して頂くことを目的に、専門家が実験の準備から児童・生徒への説明の要点まで解説する「ティーチャーズスクール」を実施した。

- ・実施地域：大阪市、三島郡、藤井寺市、柏原市
- ・実施数：申込7団体（7講座）
- ・参加者：教職員145名
- ・後援：大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会、神戸市教育委員会、尼崎市教育委員会、伊丹市教育委員会、京都市教育委員会、奈良市教育委員会、生駒市教育委員会、国立大学法人大阪教育大学
- ・協力：枚方市教育委員会

⑤教職員・自治体職員向け放射線・原子力防災教育活動

自治体職員向けのエネルギー広報活動を行った。

- ・実施対象：滋賀県市町職員（危機管理・防災担当、警察・消防、原子力災害・医療関係機関等）
- ・実施数：1団体（1講座）
- ・参加者：15名

(3) エネルギー情報の常時発信活動

①大阪科学技術館 エネルギー情報コーナーの整備

1) エネルギーに関する書籍の整備

②エネルギー情報の発信

エネルギー情報コーナーにて、エネルギーに関する資料配布を行った。

- ・資料配布数：1,646部

(4) エネルギー広報ツールの整備と貸出

①エネルギー広報ツールの整備

- ・直流交流電源装置購入 1台

II 技術振興事業

2025 年度の技術振興事業においては、経済活性化につながる事業の拡充、新たなイノベーションシステムの創出、次世代の科学技術振興の原点となる人材育成支援など、科学技術の振興に資する事業を積極的に展開した。

技術開発委員会事業では、大阪・関西万博が目指す「持続可能な社会」に関連の深いカーボンニュートラル社会の実現に向けたトランジション、Society5.0 の超スマート社会の実現を支えるフォトニクス技術などを重点的に取り組んだ。また、ものづくりにおける AI などのデジタル技術を実務レベルで活用するための人材養成を重点的に推進した。

エネルギー技術対策委員会事業においては、カーボンニュートラル社会に向けて注目が高まっている水素やバッテリーなどを中心に、実証サイトの視察も行いながら、最新の技術動向や今後の方向性に関する知見を深めた。また、新たな取り組みとして、蓄電池産業の持続的な成長を支える電池診断技術に着目し、新研究会を立上げた。また、大阪府の委託を受け、カーボンニュートラルのビジネス化推進拠点として、グラングリーン大阪北館 JAM-BASE4 階に「CN ビジネススペース拠点」を設置し、カーボンニュートラル関連ビジネスの創出と、府内企業の技術の情報発信、マッチング、技術相談等の機能を強化した。

中堅・中小企業技術振興委員会事業では、情報交流、調査研究、研究開発支援等を行うとともに、経済産業省の補助事業である成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech）について、国内最多レベルの計 19 件のプロジェクト管理を推進した。また、新たにソリューション事業を立ち上げ受託した。

地球環境技術推進懇談会事業では、サーキュラーエコノミーや上下水道など持続可能な環境技術の社会実装に向け、大阪・関西万博で発表された最新技術を加味した講演会・見学会を開催した。

大阪科学賞については、2025 年度は、卵子の老化原因解明とホウ素の発光材料に関する若手研究者 2 名に授賞した。記念講演では約 130 名の中・高校生を招待し、授賞者との意見交換会を実施、次世代層へのサイエンスの魅力を開発する活動を行った。

1. 技術開発委員会事業

2025 年度は大阪・関西万博が目指す「持続可能な社会」に関連の深いカーボンニュートラル社会の実現に向けたトランジション、Society5.0 の超スマート社会の実現を支えるフォトニクス技術などを重点的に取り組んだ。また、ものづくりにおける AI などのデジタル技術を実務レベルで活用するための人材養成を重点的に推進した。

1.1 技術開発委員会（産業界 24 社、学界 6 名、官界 11 名）

光技術応用、過熱水蒸気活用、産業界の目線でのカーボンニュートラルシステム、および、ものづくりにおける DX 活用などの研究会および人材養成に関する各事業についての活動や今後の方向性を審議した。

◇技術開発委員会開催実績（委員会 1 回・幹事会 1 回）

・第 56 回技術開発委員会

日時：2026 年 3 月 4 日（水）（オンライン・対面併用）

議題：2025 年度技術開発委員会事業報告、2026 年度技術開発委員会事業計画

講演：「京都大学大学院支援機構で展開している博士人材へのキャリアパス開発とその進路について」

京都大学 大学院教育支援機構長 平島 崇男 氏

・2025年度第1回幹事会

日時：2026年2月10日(火) (オンライン)

議題：(1) 2025年度技術開発委員会事業報告
(2) 2026年度技術開発委員会事業計画

1.2 技術開発委員会所管研究会活動

1.2.1 フォトニクス技術フォーラム (産業界7社、学官29名：研究会5回、幹事会6回)

フォトニクス技術に関する情報交流と調査研究を通じて、関西の光情報技術・次世代光学素子技術の底上げおよび産学連携の拡大を図ることを目的とする研究会では、フォトニクス技術の研究開発・活用事例を探り、人的ネットワークを拡大し、今後のあり方を考えることを目的とした調査を実施してきた。2025年度は2年計画の後半として、次世代の画像技術とそれを実現するデバイス、計測技術に焦点を当て、具体的には、「感性与光」、「AR/VR光学系の新技术」、「メタサーフェス・メタマテリアル」、「光源の新技术」、「センシング関連」といった話題を取り上げた。

1.2.2 過熱水蒸気新技术研究会 (産業界11社、学界6名、個人1名：研究会3回、幹事会6回)

過熱水蒸気利用の基礎技術・応用に関する情報交換、および産学官研究者ネットワークの構築を目的として、特に1000℃超の過熱水蒸気の工業応用を探求・普及推進を図り、さらにクリーンな特徴を生かし、食への応用やCN産業への適用事例について調査研究を行ってきた。2025年度は、会員企業が関心を持つカーボンニュートラル・グリーン化関連の新たな用途展開を調査し、過熱水蒸気の普及活動を実施した。定期研究会を年3回開催し各回ともテーマを決めず基礎研究、工業への応用、過熱水蒸気を使用した設備など多岐にわたる話題を取り上げた。2025年度末をもって本研究会の活動を終了した。

1.2.3 産業界におけるカーボンニュートラル研究会

(産業界28社、学界8名、オブザーバー8機関：研究会8回、グループワーク5回、幹事会2回)

カーボンニュートラル社会実現のためのシステムと技術オプションを明確化・共有し、一社では難しい対策立案を支援するため、業界横断の技術者ネットワークを形成し、製造業の製品ライフサイクル全体でカーボンニュートラル実現のための課題解決を加速、日本の産業競争力向上と持続可能な発展を目指した研究会を運営している。

2025年度は年度テーマを「日本版カーボンニュートラルシステム実現に向けたトランジション」とし、公開研究会1回を含め研究会活動を実施。若手メンバーによるグループワークは新たに若手企業会員を参加募集して開始した。カーボンニュートラルに向けた様々な枠組みと最新政策動向を踏まえ、エネルギー分野や、産業部門、運輸・家庭・業務部門のトランジションについて様々な情報を正しく把握し、共有化することを目指し各業界、学界、政府等の有識者による講演会の開催を通じ参加者間の交流と率直な意見交換、交流を図った。

また、日本版カーボンニュートラルシステムのイメージづくりをテーマとして、若手が率直に意見を交換し、業界を超えた人脈形成につながる場として、小林会長が自ら指導するグループワークを今年度から2年計画で実施し、今年度末には中間報告を行った。

1.3 人材養成事業

AI 活用時代の価値創造リーダーの養成、スマート工場、プラント運転・保安等における実務レベルのデジタル技術人材養成のための研修に加え、企業の個別ニーズに応える個社研修も実施した。

1)ネクストリーダー育成ワークショップ

AI 活用時代のリーダーに求められる新しい思考様式と実践スキルを習得し、生産性向上/既存事業の強化/新製品・サービス創出 を牽引するリーダー人材を育成することを目的に実施した。

・第15期：テーマ「人間主体のAI実活用による価値づくりと強い事業づくり」(8回シリーズ)

2)専門集中講座「AI・IoTによるスマート工場2日間集中講座」

自社に合ったスマート工場を構築するために、範囲が広くて掴みづらいIoTに関する実践的な専門知識を2日間集中の講義と演習で習得することを目的に実施した。

・講師：高安 篤史 氏 (合同会社コンサルンス 代表、中小企業診断士)

3)専門集中講座「プラント運転・保安等で求められるデジタル技術人材の育成講座」

プラント運転・保安等におけるデジタル技術の活用などによるスマートプラントの推進を実践できるようになるための専門知識を2日間集中の講義と演習で習得することを目的に実施した。

・講師：高安 篤史 氏 (合同会社コンサルンス 代表、中小企業診断士)

1.4 個社（1社）研修

企業における人材育成の課題や要望などの個別ニーズに応える研修プログラムを提供することで、企業の生産性向上やデジタル変革に繋げることを目的に実施した。

・テーマ：「生産現場・間接部門のデジタル化研修」(4回実施)

2. エネルギー技術対策委員会事業

社会活動の基盤となるエネルギー関連技術について、カーボンニュートラル社会に向けて注目が高まっている水素やバッテリーなどを中心に、実証サイトの視察も行いながら、最新の技術動向や今後の方向性に関する知見を深める活動を行った。

2.1 エネルギー技術対策委員会（産業界24社、学界4名、官界9名）

次世代エネルギーに関する国の施策に沿った、研究開発課題に係る調査研究活動、技術情報交流活動である3つの研究会/部会の事業報告ならびに事業計画を審議した。会員層や活動領域の拡幅に向けた公開シンポジウムも開催した。

◇開催実績（委員会1回・幹事会1回・主催講演会1回）

・第64回エネルギー技術対策委員会（オンライン・対面併用開催）

日時：2026年3月6日（金）

議題：2025年度委員会事業報告、2026年度委員会事業計画

講演会：「水素エネルギーの展望と課題」

東京大学 先端科学技術研究センター 教授 河野 龍興 氏

- ・第 81 回幹事会（オンライン・対面併用開催）

日時：2026 年 2 月 20 日（金）

議題：2025 年度委員会事業報告、2026 年度委員会事業計画）

- ・主催講演会：日本における将来のエネルギーのあり方

日時：2025 年 12 月 25 日（木）13:30～15:40

講演 1：「2050 年カーボンニュートラルの展望、世界の課題」

電源開発(株) 執行役員/ 京都大学経営管理大学院 特命教授 中山 寿美枝 氏

講演 2：「2050 年カーボンニュートラルに向けての再生可能エネルギーの課題、展望」

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）

再生可能エネルギー部長 山田 宏之 氏

2.2 エネルギー技術対策委員会所管研究会活動

2.2.1 スマートエネルギー／コミュニティ研究会（産業界 10 社、学界・官界 9 名：研究会 7 回）

本研究会は、GX 実現に向けた基本方針に基づき、再生可能エネルギーの導入促進、脱炭素化調整力（定置用蓄電池・水素等）、電力取引市場整備、次世代自動車進化、デジタル技術進展など、スマートエネルギー/スマートコミュニティのビジネスモデル変化に注視し、研究活動を進めている

2025 年度は、スマートシティ・コミュニティ（グラングリーン大阪、大阪公立大学森之宮新キャンパス）、洋上風力発電所、大型蓄電池設備、防災科学技術研究所 E-ディフェンスなど、先進的なエネルギーシステムを調査し知見を深めた。具体的には、調整力（大型蓄電池・水素カートリッジのモバイル搬送）、取引市場・デジタル技術（データセンター・VPP ビジネス動向）、ビジネスモデル変化（農水一体型陸上養殖拠点）、防災分野から幅広く情報収集を行い、会員の関心が高いテーマについて知見共有をおこなった。

2.2.2 水素・燃料電池部会（産業界 34 社、学界・官界等 58 名：部会 6 回、公開シンポジウム 1 回、実行委員会 2 回）

2025 年度は、第 14 期の 2 年目として、燃料電池分野では高効率化や長寿命化に資する新技術等の開発、社会への普及および市場拡大、水素分野ではモビリティやインフラの社会実装に関する動向を把握し、水素利用技術についての理解を深め、2040 年に商用化を目指している合成燃料の製造技術の確立、製造効率の向上など、次世代技術の開発状況等について調査を行った。また、両分野の国・自治体での施策等取組状況等についても合わせて調査し、関心の高い技術テーマの情報交流およびディスカッションを行った。その他、関連する分野における海外の動向についても情報収集を行い、国内外の比較、相違点の整理を行った。

定例研究会は 7 回（うち 1 回は公開シンポジウム、第 304 回は 3/23 開催予定）開催し、NEDO 燃料電池・水素技術開発ロードマップ解説や、NEDO 事業の事例、燃料電池の最新技術や解析・実証事業・規制などテーマとした研究会を開催した。また本研究会の第 300 回となる記念大会を水素燃料電池船「まほろば」に乗船し大阪・関西万博の水素イベントの見学も行った。高炉水素還元実証を見学し、水素需給の実証や水素サプライチェーン構築に向けた技術開発や今後の動向等についての議論を深めた。

2.2.3 アドバンスド・バッテリー技術研究会（産業界 34 社、学界・官界等 38 名）

2025 年度は、第 9 期の 1 年目として、2050 年カーボンニュートラル実現へ向け、日本経済の牽引役としてますます重要度が増している「自動車・蓄電池産業」のキーとなる新型二次電池に関する技術情報に加

え、「蓄電池産業戦略」の中間報告にも掲げられた次世代蓄電池の研究開発や製造能力の向上など、市場や産業界の動向も踏まえた情報交流を中心に活動を行った。また、社会のスマート化(DX)とグリーン化(GX)の推進に資するべく、定置用、車載用の蓄電デバイスの標準化、安全性、耐久性、大容量化、リユース・リサイクル、国内外の電池開発の動向、次世代電池や全固体電池等の実用化を見据えた材料開発等の最新技術動向など会員の関心の高いテーマを引き続き取り上げた。

定例研究会は7回(うち1回は公開シンポジウム)開催し、電気自動車向け走行中ワイヤレス給電、EV組み立てや太陽光パネルリサイクルの工場、全固体電池研究所、大型蓄電池設備、洋上風力発電事業蓄電施設、データセンター、蓄電池のモバイル搬送の見学や講演を通じて、会員の関心の高いテーマの情報を共有した。

2.2.4 蓄電システム診断・利用懇話会(産業界・学界・官界等83機関)

近年、電気自動車(EV)での使用済み蓄電池を再利用する動きや、電力の自家消費、電力系統の需給調整電源として蓄電池システムへの期待が高まっている。一方で、海外では電池発火事故が続いているように、安全性の評価方法を確立することが、普及に向けた大きな課題となっている。

現状では、リユースバッテリーの性能や安全性、特に残存寿命の評価については、様々な手法が用いられており、統一化されていないことから、さらなる議論の余地がある。信頼性や安全性を総合的に評価し、残存価値を測るための業界共通の仕組みが確立されれば、蓄電池の効率的なカスケードリユース(多段階利用)については、今はまだ限定的ながらも、今後大きな発展の可能性を秘めている。

そこで、産業界・学界・官公庁が一体となり、蓄電システム診断や利用に関心を持つあらゆる分野の関係者が集まり4回の会合を実施した。「診断・利用の現状と課題」、「最先端の診断・利用の技術」、「これからの診断・利用の技術とサービス」、「オール日本として取り組むべき診断・利用」に関する話題提供、意見交換、デモ展示を行って、知見を深めた。

2.2.5 カーボンニュートラル技術ビジネス化推進事業(大阪府委託事業)

大阪府の委託を受け、全国に先駆けてカーボンニュートラル技術のビジネス化に特化した拠点を整備・運用した。具体的には、うめきたグラングリーン大阪 JMBASE4 階に「CN ビジネスベース拠点」を設置し、カーボンニュートラル技術の情報発信、マッチング、技術相談等の機能を強化した。

また、ペロブスカイト太陽電池、水素、蓄電池、バイオエコノミー等グリーン産業分野に大阪府内企業の進出を支援するセミナー開催やマッチング機会の提供を実施し、カーボンニュートラル関連ビジネスの創出と府内企業の成長を促進することを目的に推進した。

<拠点概要>

拠点名称：CN ビジネスベース (Carbon Neutral Business Base)

常設窓口：グラングリーン大阪北館 JMBASE403 号室 (大阪市北区大深町6番38号)

ウェブサイト <https://www.cnbb.jp/>

対応内容：・セミナー、ピッチ、ビジネスマッチングの開催等を通じたビジネス支援

・チームビルディングの促進によるコンソーシアムの立ち上げ支援

・コーディネーターによるCN技術のビジネス化に関する相談対応等

対象：CN技術を有する企業、技術を活用して製品化・用途開発を行う企業、

技術の製造工程への導入や製品購入等を通じて技術の実装先となる企業等

2.2.6 電磁界（EMF）に関する調査研究委員会（学界7名）

新規委員会としての活動を開始して2年度目、ひき続き超低周波電磁界の健康影響に関する情報収集と、一般に向けた正しい知識の理解促進活動を行った。また、市民向けセミナーでのアンケート結果の有用な活用について意見交換を行った。

・開催実績

第1回委員会（10/29） 第2回委員会（3/17、上本町変電所(地球洞道)の見学付き)

一般広報としては、大阪科学技術館内活動3件、PR資料の年間上映、冊子「暮らしの中の電磁界」配付、市民向けセミナー「暮らしの中の電磁界とわたしたちの健康」2回（9/2、12/11）を実施した。

3. 中堅・中小企業技術振興委員会事業

委員会所管事業である異業種交流活動のマーケット&テクノロジー研究会（MATE研究会）、コンサルティング活動のATAC（Advanced Technologist Activation Center）事業、成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech）提案支援など各種事業に取り組んだ。

Go-Tech事業に関しては事業管理機関として、19テーマの研究開発事業を推進した。

また、令和5年度から実施している高槻市ビジネスコーディネーター（BC）事業についても、実施体制を強化し、ビジネスコーディネーター間のさらなる連携を図り、高槻市内中小企業の課題・ニーズなどの把握、その解決に向けたマッチングや技術導入などの支援活動を実施した。

さらに、(独)中小企業基盤整備機構 近畿本部と共催で「ものづくり中小企業のための支援策勉強会」を2回開催し、中小企業支援策の紹介と申請時のポイントを解説することにより、これらの施策に関心をもって頂き、自社技術の高度化にチャレンジされるきっかけに資する活動を推進した。

3.1 中堅・中小企業技術振興委員会（委員会：産業界12名、学界1名）

ものづくり高度化を通じて、中堅・中小企業の技術振興につなげるための研究会や支援事業についての活動や今後の方向性について審議した。

◇開催実績（委員会1回）

・第1回委員会

日時：2026年3月10日

議題：2025年度事業報告(案)について、2026年度事業計画(案)について

講演会：「長期存続企業にみる技能・技術継承」

静岡文化芸術大学 文化政策学部 文化政策学科 教授 曾根 秀一 氏

3.2 マーケット&テクノロジー研究会（MATE研究会）

1970年創設の異業種交流会で、中堅・中小企業の活性化や異業種の技術や経営ノウハウの交換・交流として、総会、定例研究会、サロン・ド・メイト（年間報告会）の開催に加え、宿泊見学会にて会員企業を訪問し現地での活発な意見交換も行った

（産業界15社、アドバイザー3名、オブザーバー1名）

・総会、記念講演（5/23）

・議案(1)2024年度事業報告について (2)役員について (3)2025年度事業計画について

・講演会「人生60歳から」

講師 大槻 眞一 氏（研究・イノベーション学会関西支部長/MATE研究会アドバイザー）

- ・定例研究会 2回
 - ・講演会「説明可能な AI と可視化技術の紹介（＋研究室の活動紹介）
～AI が出力する推論の理由を探ろう～」
松田 健 氏（阪南大学大学院企業情報研究科長／MATE 研究会 アドバイザー）
 - ・講演会「データでみる財政」
仲林 真子 氏（近畿大学 副学長／経済学部 経済学科 教授）
- ・見学会（企業訪問） 1回
(株)ゼンユー 栃木営業所／神崎製缶(株)栃木工場（栃木県小山市）
- ・サロン・ド・メイト（3/26、年間報告会）
- ・講演会「ウェルビーイングと効率性を両立しうる社会・経済システムの探究：北欧と日本」
徳丸 宜穂 氏（関西大学 政策創造学部 教授）
- ・会員専用ウェブサイト上でのオンライン交流（通年）

3.3 ATAC（Advanced Technologist Activation Center）（会員数 25名）

民間企業技術系 OB を中心とした組織の特徴を活かし、技術に関する相談を中堅・中小企業を中心に行い、企業が抱える品質と生産性の改善、製造技術・新製品の開発などの技術課題について、具体的な解決策を提示し、中堅・中小企業の技術振興支援を図ることを目的として活動している。

2025年度は、新規事業立ち上げ、経営改善、新製品開発等の諸課題について、中小企業へのコンサルティングを実施(26件)することに加え、運営委員会、研究会を通じた知見の共有や拡幅、さらには展示会への出展などを推進した。

- ・ものづくり補助金、省力化投資補助金、新事業進出補助金等の申請支援を行った。
- ・八尾商工会議所の高度化専門相談事業にかかる専門家として市内中小企業を訪問し、経営改善支援を行った。
- ・2回／月開催の ATAC 研究会をオンライン（Zoom）並びにリアル（ハイブリッド）で開催した。
- ・研究会：22回
- ・総会：1回（5/27）
- ・第27回きたしんビジネスマッチングフェア 2025 出展（11/5-6）
- ・コンサルティング契約件数・金額（昨年度からの継続分含む）：28件 13,222,000円

3.4 高槻市ビジネスコーディネーター（BC）事業（高槻市委託事業）

（ビジネスコーディネーター（BC） 6名（内 ATAC 会員 5名））

高槻市内の中小企業（主に製造業）にビジネスコーディネータ（BC）を派遣し、企業が抱える経営上の課題の把握・整理、適切な助言等の支援を行い、当該企業の創造性と自立性を高めることを目的として以下の諸活動を行った。

- ・経営革新等の啓発・動機付けや企業が抱える経営上の諸課題を解決するため、企業へのヒアリング、適切な指導・助言及び外部経営資源等の紹介。
- ・企業の新技術の開発・販路拡大などを促進するため、企業間のマッチング等を推進。
- ・市内企業間の交流や連携促進を図る「高槻市ものづくり企業交流会（機械・金属加工 G、電気・電子機器 G、樹脂加工 G、食品加工 G の 4 分科会）」の活動を促進するため、交流会の管理・運営等に対する支援。

- ・市報告 4 回 BC 連絡会議 12 回、高槻市ものづくり企業交流会 1 回を実施。

3.5 地域エネルギー利用最適化・省エネルギー診断拡充事業（(一社)環境共創イニシアチブ補助事業）

本事業は、中小企業の省エネ診断やエネルギーマネジメント導入を、自治体・金融機関等と連携して支援し、運用改善や設備投資を促すことで、中小企業のエネルギー利用最適化と脱炭素化を進め、2050年カーボンニュートラルと安定的・適切なエネルギー需給構造の構築を図ることを目的とし、以下の活動を行った。

- ・9月9日交付申請書を提出し、10月10日付で交付決定通知を受けた。
- ・ATACのクライアント企業を中心に、対象となる企業を探索し、1社を選定し、事前打ち合わせを経て、省エネ診断などを実施した。また、診断結果の報告会も実施した。

3.6 ソリューション事業

企業が抱える事業課題をデジタル化により解決を図るための個社支援を行った。

3.7 成長型中小企業等研究開発支援事業(Go-Tech)（近畿経済産業局補助事業）

2025年度はロボット漁船、不妊治療AIナビなど5件が新規採択され、継続分を合わせ、計19件（国内で最多レベル）のプロジェクトの事業管理を実施した。また、関西ものづくり新撰に選定された3件の開発成果が、万博会場内のTEAM EXPOパビリオンに展示された。

（2023年度採択分）

- (1)-1 「国産針葉樹を高耐久化するための持続可能な化学修飾法の開発」
- (1)-2 「アルパカVHH抗体を用いたサンドイッチ法の高度化による「スマートVHH-ELISA」の開発」
- (1)-3 「鉛フリーで低コストな亜鉛アルミ共析合金を用いたパワーデバイス用耐熱長寿命接合材料と接合プロセスの開発」
- (1)-4 「半導体復活のためにサプライチェーンを強化するブラシ型研削板によるCMPパッド研削技術の研究開発」
- (1)-5 「柔らかく復元性に富んだ新複合材および成形技術開発による歩行障がい者の機能改善を促す下肢装具の実現」
- (1)-6 「繊維の強化能力を最大限に発揮させる工法により、アルミ合金以上の強度を実現する熱可塑性樹脂ねじの開発」

（2024年度採択分）

- (1)-7 「生分解性プラスチックに使用される環境負荷が少なく高い生分解性をもつ紫外線吸収剤の開発」
- (1)-8 「空調の熱交換器のアルミ化に貢献する、銅管とアルミ管を革新的固相接合技術で接合した世界初の継手の開発」
- (1)-9 「学習データの偏在を防ぎ、データ構築からモデル化までを一気通貫で構築できるAIシステムの研究開発」
- (1)-10 「世界初、有人環境で水と空気だけでウイルスを高速不活化するプラズママイクロミストモジュールの研究開発」
- (1)-11 「食品産業のロボット利活用を推進する多指人工筋肉ロボットハンドの開発」
- (1)-12 「早期発見された小型肺がんの切除範囲を決定するためのAI判定支援システムの研究開発」
- (1)-13 「リチウムイオン電池の安心・安全を担う非破壊検査装置向けX線利用光導波型光子計数検出器の開発」

- (1)-14 「世界初のアンモニアを主燃料とする船舶用ボイラ向けバーナの開発」
(2025 年度採択分)
- (1)-15 「高効率油圧システムによるロボット漁船の高度操縦技術の確立と水産養殖の給餌自動化の実現に向けた研究開発」
- (1)-16 「ネオセルフ抗原の安定した高発現細胞の開発による不妊治療等を促す β 2GPI ネオセルフ抗体検査手法の確立」
- (1)-17 「抗体重鎖・軽鎖の新規結合技術による世界初のバクテリア発現型 iSoFab 抗体の製造プロセスの開発」
- (1)-18 「一般医でも高い精子回収率で不妊治療手術を可能とする AI ナビゲーションシステムの研究開発」
- (1)-19 「微量の唾液や汗から肥満や肌などの健康状態をその場で自動分析できる分析装置 MiniLab-E の研究開発」

4. 地球環境技術推進懇談会事業（産業界 14 社、学界 10 名、官界 10 団体）

地球環境技術推進懇談会のもとに、地球環境に関わる科学技術の研究開発と産業化を促進するため産学官等の連携による情報交流、調査研究、提言、共同研究、普及啓発等について活動を行い、自治体や産業界の環境活動を支援し、新たな環境ビジネスの創生につなげるべく活動している。2025 年度は、サーキュラーエコノミーや上下水道など、持続可能な環境技術の社会実装に向け、大阪・関西万博で発表された最新技術を加味し、持続可能な環境技術に関する講演会や見学会を開催した。

◇開催実績（総会 1 回・幹事会 2 回）

- ・ 第 34 回地球環境技術推進懇談会総会（2026/3/6）
特別講演：「人類の持続可能社会の為の再生可能エネルギーの俯瞰」
兵庫県立大学 大学院工学研究科 材料・放射光工学専攻 教授 伊藤 省吾 氏
- ・ 2025 年度第 1 回幹事会（2025/10/21）
- ・ 2025 年度第 2 回幹事会（2026/2/20）

4.1 地球懇本体活動（講演会 4 回、見学会 3 回）

カーボンニュートラル総論、再生可能エネルギーの導入推進、バイオマス利活用に関する講演会に関するテーマを取り上げ本体講演会と見学会を開催した。見学会は以下の通り。

- ・ 第 1 回見学会（2025/7/24～7/25）
温泉の熱水と蒸気エネルギーを利用した世界初の発電所や温泉熱を利用する、大分県農林水産研究指導センター農業研究部花きグループ発電所を見学。地下深部（約 760～3,000m）の地熱を利用して発電する日本で最大級の地熱発電所である九電みらいエナジー（株）八丁原発電所を見学。温泉井の蒸気を使用する別府温泉フルーツファームを見学。
- ・ 第 2 回見学会（2025/11/5）
海洋温度差発電、潮流発電、波力発電、洋上風力発電の研究施設および実証試験設備のある佐賀大学海洋エネルギー研究所 伊万里サテライト内を見学。
- ・ 第 3 回見学会（2026/1/29）
東京パワーテクノロジー（株）川崎リサイクルセンターの太陽光パネルリサイクル施設を見学。

4.2 地球懇所管研究会活動

4.2.1 循環・代謝型社会システム研究会

2024年度より2年間の計画で「循環型社会実現に向けた資源循環の強化と脱炭素化の推進」を活動テーマとし、2025年度は2年計画の2年目として、調査研究を4回実施した。

本年度は、廃棄物と資源循環に関する国の取組み、家電リサイクル、食品ロス削減、自然再興の推進、プラスチック資源循環について、各分野の専門家である講師の先生方から話題提供をしていただき、主査の高岡昌輝先生と共に会員間で議論を深めた。

見学会では、大阪・関西万博を訪問し、カーボンニュートラルを実現した「未来の都市パビリオン」と万博会場から出た生ごみからバイオガスを製造する「日本館のメタン発酵施設」を視察した。

4.2.2 水再生・バイオソリッド研究会

2025年度から2年間の計画で「脱炭素社会に対応し、安全かつ安心な下水道の達成に向けた革新的技術開発」を活動テーマとし、2025年度は2年計画の1年目として、調査研究を4回実施した。

本年度は、上下水道の政策展開、バイオマスからの水素製造、有機フッ素化合物、ブルーカーボン、災害対応について、各分野の専門家である講師の先生方から話題提供をしていただき会員間で議論を深めた。

見学会では、秋田県内流域の下水道処理を集約・効率化した「秋田臨海処理センター」を視察した。

5. 大阪科学賞

1983年度に創設された本賞は、創造的科学技术の振興を図り、21世紀における新たな発展と明日の人類社会に貢献することを目的とし、大阪を中心に科学技术の研究・開発に貢献された若手研究者（50歳以下）に対し、毎年2件、本賞を授与する。また、表彰式・記念講演には次世代層（大学生・大学院生・高校生）にも呼びかけ、一人でも多くの若者たちが、これからの日本を代表する科学者や技術者を目指すための一助としている。

2025年度は卵子老化抑制とホウ素発光材料に関する若手研究者2名に授賞し、記念講演では約130名の中・高校生を招待して、授賞者との意見交換会の開催など、次世代層へのサイエンスの魅力を啓発する活動を実施した。

<活動内容>

大阪府、大阪市、(一財)大阪科学技術センターの三者で構成する運営委員会にて、選考委員の決定、候補者の公募、授賞者の決定（選定は選考委員会にて実施）、表彰式・記念講演を行った。

・第43回 令和7年度（2025年度）受賞者

北島 智也 氏（理化学研究所 生命機能科学研究センター 副センター長・チームディレクター）

業績：卵子の老化にともなう染色体数異常の原因解明と抑止技術の開発

畠山 琢次 氏（京都大学 大学院理学研究科 化学専攻 教授）

業績：One-pot および One-shot ホウ素化を鍵とした多重共鳴材料の創出

・記者発表：9月25日

・表彰式・記念講演：11月8日

大阪大学の高大連携プログラム（大阪大学 SEEDS プログラム）とのコラボレーション等で、194人（うち、高大連携プログラム等の中高校生129名）に参加いただき、的確かつ優れた質問が出されることで活発な質疑応答が行われた。

◇開催実績

- ・運営委員会(書面審議) : 2回 (4/11、9/5) *書面表決日
- ・選考委員会 : 2回 (5/7、8/22)
- ・幹事会 : 3回 (7/8、8/5、12/18)

6. 学協会の地域活動支援事業

(1) 日本ライセンス協会関西本部 (日本ライセンス協会受託事業)

技術、特許、ノウハウ、商標、ソフトウェア、デジタルコンツなどを含む知的財産のライセンス、技術協力等全般に関与している企業のトップマネジメント、リーダー、実務者、弁護士、弁理士などから構成される日本ライセンス協会の関西本部活動を支援している。

<活動内容>

月例研究会および研修委員会、教育委員会 (ライセンス実務講座を含む)、年次大会など、国内外の各種会議・会合において、関西本部が関係する諸活動を実施した。

Ⅲ ニューマテリアルセンター事業

わが国産業界の国際競争力向上に資する観点から、国家施策に沿った事業として金属系新素材の評価試験方法の確立および標準化の促進とそれに関連する研究開発を推進してきた。

標準化に関しては、アジアと一体となった国際標準化に重点を置いてテーマの選定と提案に努めるとともに、金属系新素材標準化のナショナルセンターとしての社会的使命と責任を果たすべく活動を推進した。

標準化事業に関しては、2025年度は経済産業省の委託事業としてタービンの遮熱コーティングの予防保全を実現する健全性試験方法のISOへのNP提案に向けた活動を推進するとともに、昨年ISOでNP承認を得た輸送機器用軽量化板材の二軸バルジ試験方法のISO制定に向けた活動も実施した。また、高性能永久磁石の高磁界での磁気特性測定方法に関しては、昨年度発行したIEC国際規格の第2版発行に向けて活動している。また、国際標準として制定されている「遮熱コーティングの曲げ共振による高温ヤング率測定方法」については、JIS制定にも取り組んだ。併せて過去38年間に制定に関与したJIS99件とISO44件のメンテナンスを実施した。

研究開発事業に関しては、地域中小企業の技術開発支援のため、国の支援事業である成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech）を進めている。今年度は、継続3年目最終年度となるWAAM積層造形技術の品質評価技術の確立によるガスタービン燃焼器部品の試作開発を推進すると共に、2024年度採択されたテーマである脱炭素社会実現に貢献する次世代バイオマス発電用ボイラーに用いる高耐食性被膜の開発を継続推進した。

<委員会活動>

1. 常設委員会

名 称 第66回ニューマテリアルセンター運営委員会

実施日 2025年5月30日

場 所 大阪科学技術センター

議 題 1) 前回議事要旨の報告

2) 2024年度事業報告(案)・収支計算(案)についての審議

3) 2025年度事業計画(案)・収支予算(案)についての審議

<活動内容>

1. 標準化事業

(1) タービンの遮熱コーティングの予防保全を実現する健全性試験方法に関する国際標準化

(経済産業省委託事業／野村総研再委託、産業界15社、団体・学官7人)

火力発電におけるCO₂排出量削減および発電効率向上には、タービン燃焼ガス温度の高温化が不可欠である。この高温化技術においてタービン翼の酸化・腐食防止、およびメタル部強度の維持が実現可能なキーテクノロジーである遮熱コーティング（TBC）の健全性評価法の国際標準化を日本が主導して進めている。

今年度は3年事業の2年目にあたり、試験研究内容を検討する健全性評価委員会（7/28、12/17）、試験研究を実施するワーキンググループ（WG）（5/26、10/28、1/22）、国内のステークホルダーから構成する産学官連携委員会（6/23、2/13）を開催して、関係者との緊密な連携のもと下記の取り組みを推進した。

1) 国際標準化に向けた試験研究：非破壊によるTBC剥離検出（超音波光探傷法等）、剥離強度計測（円環

試験片等)、材料劣化・熱伝導率等の諸特性計測に関する試験研究を実施した。

- 2) 国際標準にすべき試験方法の見極めと規格素案作成：1)の結果を基に前記WGならびに委員会で議論を行い、製品形状(凹凸形状)の熱伝導率測定法に関する規格素案を作成した。
- 3) ISO/PWI20010の再NP投票：前事業にて予備業務項目となっていた「X線回折法によるTBCのYSZにおける単斜晶(m相)の体積率決定方法」について前回投票時の各国のコメントに対する対応案を前記委員会などで議論して修正ドラフトに織り込んだ。その後、主要Pメンバー6カ国(韓国、フィンランド、ポーランド、ドイツ、イギリス、インド)への訪問、およびISO/TC107(金属・無機質被膜)国際会議(武漢)への参加を通して、投票決定者やエキスパートにPWI20010の重要性を説明し、賛同を得た。そして投票結果は賛成8カ国、反対0カ国、エキスパート登録8カ国となり承認された。

(2) 輸送機器用軽量化板材の二軸バルジ試験方法に関する国際標準化

(自主事業、エキスパート11人(ベルギー、中国、インド、イラン、韓国、オランダ、スウェーデン、アメリカ)、サポートチーム2人)

地球温暖化対策としての輸送機器軽量化には、アルミニウム合金や高強度鋼板などの軽量化板材の利用拡大が不可欠である。しかしこれらの軽量化板材には成形不良(延性不足、スプリングバック)が生じやすく普及の妨げとなっている。この課題解決には高精度な成形シミュレーションが求められるが、二軸方向にそれぞれ異なる大きさで発生するひずみ量を測定できる二軸応力試験法が存在しない。そこで軽量化板材でも高精度にひずみ量を測定できる試験方法の国際標準化を進めている。

昨年度末我々が提案したNPドラフトが承認され、経産省からの3年間の委託事業が終了した。

今年度は、投票時に得られた各国のコメントへの対応案を作成し、ISO/TC164(金属の機械試験)/SC2(延性試験)国際会議(パリ)にて審議した結果、軽微な指摘のみで合意を得た。そしてISOに昨年新規に導入されたOnline Standards Development(オンライン規格開発)への掲載が完了し、修正したドラフトがCD(委員会原案)として委員会マネージャーからSC2メンバーへ回付された。

(3) 高磁界での磁気特性測定方法の国際標準化

高性能永久磁石の磁気測定法として「超電導磁石を用いる開磁路での磁気測定法」を開発し、2017年からはその国際標準化を目指した活動を推進してきた。第一ステップとして、2019年度にTR(Technical Report:技術報告書)を作成してIEC/TC68(磁性合金及び磁性鋼)へ提案し、2021年4月に承認されてIEC/TR 63304として発行された。

2022年度からは自主事業として、TRを基に作成したIEC規格原案をIEC/TC68に提案し、昨年度2月に次の規格番号およびタイトルでIEC規格として発行された。

IEC 60404-18 Magnetic materials - Part 18: Permanent magnet (magnetically hard) materials - Methods of measurement of the magnetic properties in an open magnetic circuit using a superconducting magnet (超電導磁石を用いる開磁路による永久磁石の磁気特性測定方法)

今年度はIEC発行直前にベルギーから出されたコメントに対応した第2版の発行に向けて準備を進め、10月に北京で開催されたIEC/TC68国際会議にて改定方針についてのプレゼンを実施した。プレゼンは各国に全面的に受け入れられたため、本方針に沿って第2版の改訂作業を行った。

(4) JISの制定(産業界11社・団体、学官5人)

- ・遮熱コーティングの曲げ共振による高温ヤング率測定方法

本測定法に関しては、ISO/TC107(金属及び無機皮膜)において2021年にISO 23486を制定しており、これに整合する対応JISを制定するため、2025年4~11月の期間、原案作成委員会を設置してJIS化を推進した。作成したJIS原案は、3月4日に経済産業省への申出が完了した。

2. 研究開発事業

(1) 成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech：近畿経済産業局補助事業）

NMC 運営会員に関連する中堅・中小企業における事業化を支援するため、2 件のプロジェクト(継続 3 年間)の事業管理を実施した。

(2023 年度採択分)

(1-1) WAAM 積層造形技術と品質評価技術の確立によるガスタービン燃焼器部品の試作開発

(2024 年度採択分)

(1-2) 脱炭素社会実現に貢献する次世代バイオマス発電用ボイラーに用いる高耐食性被膜の開発

3. 材料技術振興基盤の整備事業

(1) 普及・広報活動

NMC 事業活動を通じて得られた成果や最新の技術情報などについては、できるだけ迅速かつ的確に会員企業の技術者・研究者に提供するために下記事業を展開している。

(1-1) NMC ニュースレターの発行

NMC の各種事業に関する活動状況と行事予定、新技術・新素材の開発動向に関する情報提供の媒体として、毎月発行して会員サービスの充実を図っている。

(1-2) NMC 講演会の開催

ニューマテリアルセンター運営委員会の後、特別講演会として開催した。

演題：金属間化合物を基盤相とする耐熱高強度合金の開発と応用展開

講師：金野泰幸 先生（大阪公立大学 工学研究科 マテリアル工学分野 教授）

4. 学協会の地域活動支援事業

(1) 日本鉄鋼協会関西支部・日本金属学会関西支部の活動支援

日本鉄鋼協会・日本金属学会関西支部の講演会、見学会、材料セミナー等の運営を行うとともに関西で開催される国際会議やものづくり教育（学生工場見学）等を支援している。

IV 地域開発促進事業

地域開発委員会において、国及び地方自治体の地域開発計画や産業界ニーズに機動的に対応しながら、関西地域を中心とする地域開発・地域活性化の推進に取り組んだ。2025年度は、8月にポスト万博の都市空間戦略に関する公開シンポジウムを開催。また、都市再生部会では、新テーマ「不確実な社会を賢く生き抜く大阪の未来戦略」をスタート。2050年を見据えた調査研究を開始した。

1. 地域開発委員会事業

委員会、幹事会を通じ、関西の地域開発や地域活性化の課題および課題解決の方向性や糸口を共有し、今後の活動や方向性について審議した。また、昨年度の提言を元に、公開シンポジウムを開催し、成果を広く発信した。

(1) 地域開発委員会（産業界 23 社、学・官界 17 名）

所管事業である大阪都市再生部会ならびに新規事業の検討を含む事業計画について審議した。

◇開催実績（委員会 1 回、幹事会 1 回、公開シンポジウム 1 回）

・第 75 回地域開発委員会（オンライン・対面併用）

日時：2026 年 3 月 10 日（火）10:00～12:00

議題：2025 年度事業報告について

2026 年度事業計画について

講演：「マイクロ・ナノプラスチックの標準サンプル整備と安全性評価」

大阪大学大学院 薬学研究科 教授 堤 康央氏

・地域開発委員会第 110 回幹事会

日時：2026 年 2 月 19 日（木）11:00～12:00（オンライン）

議題：2025 年度事業報告・2026 年度事業計画について

その他

・公開シンポジウム

日時：2025 年 8 月 8 日（金）15:00～17:45

内容：「2025 年大阪・関西万博で何をレガシーとして残すのか」

1. 主催者挨拶（株）大林組 常務執行役員/地域開発委員会副委員長 新田 浩二郎氏

2. 基調講演①「EXPO（BIE 登録博）開催と地域開発 過去/未来」

関西学院大学 名誉教授 加藤晃規氏

3. 基調講演②「これからの大阪のまちづくり」

大阪市計画調整局長 山田裕文氏

4. パネルディスカッション テーマ「2025 年大阪・関西万博で何をレガシーとして残すのか」

モデレータ 大阪公立大学 大学院工学研究科 都市系専攻 教授 嘉名 光市氏

パネラー オリックス(株) 執行役 グループ関西代表 高橋豊典氏

大阪ガス(株) 執行役員 京都地区統括支配人 門脇あつ子氏

(独)都市再生機構 西日本支社 副支社長 村井 剛氏

(株)竹中工務店 執行役員/ 地域開発委員会副委員長 岸田文夫氏

<活動内容>

【所管する研究会等の活動】

(1) 大阪都市再生部会（産業界 11 社、学界 2 名、官界 4 名）

情報交流活動では、フォーラム・先進事例調査を通じ、都市の再活性化、新産業の創出等に関し、先進的事例や新たな社会動向を把握するため、情報収集を行った。

調査研究活動では、変化とリスクが絶えず顕在化する時代、また、それに対応するための新たな技術や制度が絶えず生まれてくる時代において、大阪が日本および世界の主要都市として発展を続けるために、2050 年を見据えて進めるべき大阪の戦略を検討することを目的として活動した。

各回、外部から講師を招いたほか、不確実な社会を賢く生き抜く大阪の未来戦略に関する意見交換を行い、計 4 回の研究会を実施した。

検討の初年度である 2025 年度は、現時点で想定されている社会の変化やリスクについて学び、大阪の特徴も踏まえ、不確実な社会を賢く生き抜くための大阪の都市戦略の基本的な考え方をまとめた。

- ・部会 1 回、フォーラム 2 回、先進事例調査 2 回、調査研究会 4 回
- ・「関西に対する海面上昇や水害リスクについて」、「都市を通して考える日本の未来」 など

V. ビル利用促進事業

貸会場事業においては、顧客ニーズや意見に基づいた最新の映像・音響機器の整備を実施した。また、新規利用先の開拓としてDM発送や案内メールの配信等の広報活動を継続的に実施するとともに、収益増進を目的に料金改定を実施した。しかし、オンライン式会議の定着化や法改正等による顧客利用形態の変化の影響もあり利用会議室の小規模化や利用件数の減少等により、収益増進には繋がらなかった。

ビル改修工事においては、原材料の品薄や資材価格が引き続き高騰する中、2021年度から開始した改修工事計画に基づき、主要機器全体及び老朽化機器の部分更新工事を着実に実施した。さらに、廃棄物の減量および分別収集などの資源リサイクルなど環境に配慮した取組みも引き続き積極的に推進した。

<活動内容>

1. 長期視点に立ったビル資産の有効な運用

(1) テナント事業

① 新規テナントの誘致に向けての情報収集

- ・新規入居希望団体に備え、ビルの収益向上と採算性を踏まえた入居スペース確保の検討を行った。

② テナント事業及び貸会場事業のシナジー効果による収入の安定化

- ・テナントのニーズや意見も参考にして貸会場設備を更新するなど、ビル付加価値の向上に努めた。
- ・稼働率の低い貸会議室からテナント室への用途変更の可能性について検討を行った。
- ・テナントからの会場利用顧客紹介を随時依頼した。

(2) 貸会場事業

貸会場事業においては、顧客ニーズや意見に基づいた最新の映像・音響機器の整備を実施した。また、新規利用先の開拓としてDM発送や案内メールの配信等の広報活動を継続的に実施するとともに、収益増進を目的に料金改定を実施した。しかし、オンライン式会議の定着化や法改正等による顧客利用形態の変化の影響もあり利用会議室の小規模化や利用件数の減少等により、収益増進には繋がらなかった。

ホームページの更新、デジタルサイネージ新設による案内サービス強化、貸会議室照明のLED化更新等を今年度を実施し、引き続き常連顧客の維持およびリピーター確保並びに新規顧客獲得向上に努めた。

① 貸会場の利用促進

社会環境の変化、顧客ニーズの多様化に機敏に対応し、満足度の高いサービスを提供した。

1) 新規利用先の開拓

- ・貸会場DMの発送・・・団体・学会や医療系・採用系など新規顧客を中心に封書案内

2) 広報・営業活動

- ・貸会議室広告・検索サイトでの広報・・・「会議室.com」に継続掲載
- ・重点営業活動による主要顧客の繋ぎ止め・・・主要顧客を中心に訪問活動の実施
- ・リピーターの獲得広報・・・リピーターへの電子メール広報（毎月月末に約500通を配信）
- ・近隣企業への広報（適宜、近隣ビルへ案内パンフレット送付）

3) 会場利用促進に関する企画の検討

- ・安定的に会場利用実績のある医療系顧客（健診会場利用）への付加スペース貸出サービス提供実施

- ・閑散期の利用顧客獲得のため貸会議室定価の個別値引きの導入検討

② 貸会場の整備

1) 会場備品の継続整備

- ・各種ウイルス感染対策備品（除菌アルコール等）補充・・・（随時）
- ・各種電源タップ・延長コード補充・・・・・・・・・・・・（5月19日）
- ・卓上マイクスタンド補充・・・・・・・・・・・・（7月23日）
- ・プロジェクター&パソコン接続用HDMIケーブル補充・・・・（8月5日）
- ・有線マイクケーブル補充・・・・・・・・・・・・（8月7日）
- ・液晶プロジェクター3台補充・・・・・・・・・・・・（9月22日）
- ・有線マイク補充・・・・・・・・・・・・（10月29日）
- ・中ホール窓側電動式吊ボタン新設・・・・・・・・・・・・（12月15日）

2) 各会場の老朽部分の整備（随時実施）

- ・8階大ホール電動スクリーン不具合調整及び修繕・・・・・・・・（5月8日、10月23日）
- ・8階小ホール補助モニター不具合修繕・・・・・・・・・・・・（7月15日、12月16日）
- ・8階中・小ホール用会議机キャスター部品交換・・・・・・・・（12月18日）
- ・4階貸会場照明器具更新工事（LED化）・・・・・・・・・・・・（3月9日・10日）

③ 貸会場利用件数（4月～3月）

室名	401	402	403	404	405	大ホール	中ホール	小ホール	B101	B102
件数	199	149	134	179	123	100	178	115	165	151

室名	600	601	602	603	605	700	701	702	703	合計
件数	117	203	156	115	116	141	152	102	102	2,697件

※2024年度実績 合計 2,887件

2. 安全で快適なビル環境の提供

(1) ビル主要部分改修工事の実施と計画

①主要部分改修工事

1) 2025年度工事

- ・汚水・雑排水ポンプ更新（第2期）工事の実施
地下2階南側雑排水ポンプ更新・・・・・・・・・・・・（8月6日～8日）
- ・受変電機器他部分更新（第5期）工事の実施
高圧電力用コンデンサ、高圧カットアウト、他関連機器等取替・・・・（11月23日）
（電力用コンデンサ及び変圧器の低濃度（微量）PCB混入検査含む⇒結果：PCB混入無し）

2) 次年度以降の工事

- ・受変電機器他部分更新計画・・・・2026年度 一般動力変圧器更新&EV用変圧器関連機器更新準備
2027年度 EV用変圧器類更新準備
- ・各種ポンプ類更新計画・・・・・・・・2026年度 地下2階給水設備 揚水ポンプ等更新準備
- ・エレベーター更新計画・・・・・・・・2027年度 エレベーター1・2号機リニューアル準備

②その他工事 随時老朽部分の整備

- ・空調ドレンポンプ不具合点検及び改善作業（405号室）・・・（4月8日）
- ・4階非常放送設備改修工事・・・（4月29日）
- ・1階・4階男女トイレ便器改修工事（和便器の洋便器化）・・・（4月29日、5月3日～6日）
- ・1・2階共用廊下照明LED化更新工事・・・（5月3日～6日）
- ・ビル東階段非常照明器具増設工事（1～8階中間階）・・・（5月3日～6日）
- ・1階玄関外部エントランス床タイル一部張替工事・・・（5月3日～6日）
- ・空調ドレンポンプ分解洗浄点検作業（各事務室・貸会議室）・・・（5月5日・6日）
- ・空調加湿モジュール分解洗浄作業（各階空調機械室）・・・（5月6日、9日）
- ・空調ドレンポンプ電源基板交換（405号室、501号室）・・・（5月12日）
- ・2階展示場避難口・通路誘導灯更新工事・・・（6月18日）
- ・空調ドレンポンプ電源基板購入（交換予備品5個）・・・（6月18日）
- ・空調ドレンポンプ電源基板交換（B102号室）・・・（6月18日）
- ・ビル南面通路（駐車場）区画ライン補修工事・・・（6月29日）
- ・空調室内機ドレンパン&ドレンポンプ不具合点検・分解清掃（611号室）・・・（7月1日）
- ・空調ドレンポンプ不具合点検及び清掃作業（405号室）・・・（7月2日）
- ・2階東・西避難口用鉄扉(SD)塗装補修工事【館改装関連】・・・（7月2日）
- ・地下2階北汚水槽減水異常電極帯修繕工事・・・（7月2日）
- ・地下2階北汚水槽ポンプ作動状況点検調査・・・（7月13日）
- ・地下2階清掃要員室天井漏水修繕工事・・・（7月17日）
- ・3階事務所レイアウト変更工事（301号室）・・・（8月9日～14日）
- ・3階事務所レイアウト変更に伴う電話・LAN配線整備工事・・・（8月9日～14日、22日、9月19日）
- ・4階空調室外機（EHP-4-2）故障修繕（冷媒ガス追加充填）・・・（8月15日）
- ・空調ドレンポンプ緊急修繕&室内機フロートスイッチ交換（700号室）・・・（9月2日、22日）
- ・7階700号室ハンガードア開閉補修・・・（12月15日）
- ・3階女子洋式トイレ ウォシュレット取替・・・（1月5日）
- ・3階女子洋式トイレ フラッシュバルブ押棒部取替・・・（1月5日）
- ・地下1階かぎこう教室前避難口誘導灯更新工事・・・（1月30日）
- ・3階湯沸器湯出口管漏水故障取替・・・（2月5日）
- ・4階・7階東側鉄扉開閉不良補修・・・（3月25日）

(2) 管理・維持保全

①ビル内主要設備点検整備

- ・ビル設備点検（設備巡回点検、電気設備他）・・・（毎月1回実施）
- ・空気環境測定・・・（隔月1回実施）
- ・防災避難誘導放送訓練・・・（毎月2回）
- ・害虫調査駆除作業・・・（全館一斉駆除4月29日、10月5日、部分駆除毎月2回）
- ・消防設備点検・・・（4月4日～4月6日、10月3日～10月5日）
- ・放送設備点検・・・（4月6日、10月5日）
- ・自動扉点検作業・・・（5月7日、8月20日、11月5日、2月3日）
- ・昇降機設備点検・・・（毎月実施、法定点検5月14日、8月20日）

- ・電話交換設備点検・・・・・・・・・・・・・・・・（6月25日, 9月19日, 12月24日, 3月30日）
- ・空調設備点検・・・・・・・・・・・・・・・・（6月25日, 7月13日, 9月25日, 12月25日, 1月18日・23日, 3月25日）
- ・蓄電池設備点検作業・・・・・・・・・・・・・・・・（5月14日）
- ・給排水設備点検整備・・・・・・・・・・・・・・・・（上水道設備 7月1日～7月9日、下水道設備 10月4日）
- ・受変電設備精密点検・・・・・・・・・・・・・・・・（11月23日）
- ・ビル窓清掃作業・・・・・・・・・・・・・・・・（4月14日, 7月28日, 10月20日, 1月19日）

(3) 検査・届出

- ・廃棄物の減量推進および適正処理に関する計画・報告（4月29日）
- ・飲料水水質検査・・・・・・・・・・・・・・・・（7月14日, 1月29日）
- ・簡易専用水道検査・・・・・・・・・・・・・・・・（7月29日）
- ・防火対象物点検・報告・・・・・・・・・・・・（9月16日～9月29日点検、11月4日報告）
- ・特定建築物（防火設備）定期検査・報告・・・・・・・・（10月3日～10月5日検査、12月25日報告）

(4) ビル共同防火管理協議会の運営

- ・ビル共同防火管理協議会開催・・・・・・・・・・・・（4月23日）
- ・防災総合避難訓練の実施・・・・・・・・・・・・（11月10日）

VI 総合企画活動

総合企画活動においては、科学技術の振興と関西産業発展に資するべく科学・産業振興に関する情報発信ならびに公益性の高い事業の実施状況等についての情報発信を強化し、財団の公益的活動に関する理解促進を図った。

賛助会員に対しては、ウェブサイトおよびメールマガジンによる情報発信、講演会等の開催、会員同士の交流の場の提供を行うとともに、顕彰の推薦団体として科学技術分野の表彰制度への候補者推薦を行った。

関係諸団体との連携においては、各団体の知見を当財団の取組に反映すべく、定期的な情報交換の場を設けた。大阪大学大学院工学研究科（人材育成ならびに教育における包括連携協定を提携）との今後の活動を充実させるため、社会実装を目指す大学の若手研究者と研究シーズを求める企業の技術者が共創を目指す場の創出に向けた検討を実施し、トライアルイベントを開催した。

<活動内容>

1. 科学技術振興の基盤づくり

科学技術の振興と関西産業発展のための基盤づくりに向けて、次の諸事業を実施した。

(1) 広報活動

ウェブサイト、機関誌等による当財団の事業活動・成果などの広報活動および関西地域における科学技術に関する情報発信等を行うとともに、報道機関との連携を図り、積極的な情報発信を行った。

① 記者発表（2件）

- 1) 2025年度第35回大阪科学技術館展示改装について（7/16）
- 2) 第43回（令和7年度）大阪科学賞受賞者決定の発表について（9/25）

② プレス・リリース（11件）

- 1) 大阪科学技術館 新規ブースオープンについて（大和ハウス工業㈱）（4/4）
- 2) 大阪科学技術館 「サイエンス・メイトフェスティバル」開催告知ご検討のお願い（4/8）
- 3) 第43回（2025年度）大阪科学賞 受賞候補者の募集について（5/19）
- 4) 大阪科学技術館 2025年度第35回大阪科学技術館展示改装披露に伴う記者発表・披露取材方ごお願い（6/20）
- 5) 大阪科学技術館 夏休みイベント開催告知ご検討のお願い（7/7）
- 6) 第43回（2025年度）大阪科学賞 受賞者決定の発表について（9/19）
- 7) 第25回LSSサイエンスカフェ 開催告知ご検討のお願い（9/22）
- 8) 第43回大阪科学賞 表彰式・記念講演 ご来場ごお願い（11/5）
- 9) 大阪科学技術館 大阪科学技術館冬イベント開催告知ご検討のお願い（12/2）
- 10) 大阪科学技術館 特別展示「まだ見れる！学べる！大阪・関西万博」開催告知ご検討のお願い（12/12）
- 11) 大阪科学技術館 春イベント開催告知ご検討のお願い（3/6）

(2) 情報提供活動

① 財団の運営状況のご説明

賛助会員および委員会・研究会等の関係者を対象に、ご支援をいただいていることによって成し得た事業の実施状況、財団の運営状況についてご説明する場として、会員懇談会を開催した。

第2回会員懇談会(7/29) 「大阪科学技術センターの事業実施状況について」

② 機関誌「the OSTEC」の発行(季刊・年4回発行:4/5, 7/5, 10/5, 1/5)

財団の事業活動に関する情報を中心として、科学技術・産業技術に関する動向などを掲載した機関誌「the OSTEC」を発行した。最近の成果や取材記事を集めた特集コーナーとして掲載するとともに、事業計画、事業紹介、各種活動報告、イベント案内等を積極的に掲載した。

③ OSTEC講演会等の開催(講演会2回)

科学技術動向や先端技術をテーマとした講演会等を実施した。

(1) 第160回OSTEC講演会(6/11) 「太陽の脅威とスーパーフレア」

花山宇宙文化財団 理事長 柴田 一成 氏

(2) 第161回OSTEC講演会(7/29) 「データサイエンスによる事業課題の解決と高度人材育成」

関西大学 教授・ビジネスデータサイエンス学部長 鷲尾 隆 氏

(3) 関係機関との連携

財団事業の活動をより深めていくために、全国の科学技術振興機関等との情報交流など連携を強化し、地域技術振興等に関する意見交換を実施した。

① 全国地域技術センター連絡協議会(事務連絡会2回、総会(書面)2回)

・経済産業省講演「地方での投資拡大に向けた課題と方向性」

経済産業省 経済産業政策局 地域経済産業政策課 係長 鎌谷 喜充 氏

・各地域団体の最新取り組みの情報交換、各課題に対する意見交換

② 三財団連絡会議(1回開催)

(4) 会員同士の交流の場

賛助会員、委員会・部会・研究会関係者、普及啓発事業関係者、貸会場利用者、行政機関の方等、科学技術にまつわる方々の産学官交流の場として、新年交歓会等を開催した。また、事業実施状況のご説明の場に併せて交流会を開催し、委員会・研究会・部会等を横断的に、普段交わることの少ない会員同士の交流を深めていただいた。

・新年交歓会:2026年1月6日(火)15:30~17:00(参加者:348名)*大阪国際サイエンスクラブ共催

・会員懇談会交流会:2025年7月29日(火)17:20~18:30(参加者:68名)

2. 賛助会員対応活動

(1) 会員の事業への参画推進

情報提供活動に加え各種事業活動における公開シンポジウム等の情報提供を行い、多くの会員に参加いただいた。

(2) 叙勲、国家褒章、文部科学大臣表彰などの顕彰候補者の推薦

国や地方自治体等からの推薦依頼を受け、賛助会員様を対象とし、科学技術分野の表彰制度への候補者推薦を行った。

①叙勲

1)2025 年度叙勲件数 0 件 (推薦なし)

2)2026 年度叙勲候補者の推薦件数 0 件

②国家褒章

1)2025 年度受章件数 0 件 (推薦なし)

2)2026 年度受章候補者の推薦件数 0 件

③文部科学大臣表彰

1)2025 年度大臣表彰受賞件数 0 件

2)2026 年度大臣表彰候補者の推薦件数 1 件

④大阪府技術開発関係表彰

1)2025 年度大阪府表彰受賞件数 1 件 (2024 年度推薦 1 件)

2)2026 年度大阪府表彰候補者の推薦件数 1 件

(3) メールによる情報発信 (配信回数 163 件)

OSTEC 通信(メールマガジン)を発行し、財団の事業活動ならびに関連団体のイベント情報等を適宜会員に配信した。

3. 経営企画

中期的な視点での組織機能の充実、収支改善など経営基盤の強化、効率的・効果的な事業活動の推進を目指した事業計画を策定するとともに、既存業務のシステム化を進めるなど業務効率化に取り組んだ。

(1) 2030 年のありたい姿「価値共創のパートナー」の実現に向けた事業の推進

(大阪大学大学院工学研究科との人材育成ならびに教育における連携の取組み)

2020 年 3 月 31 日に締結した大阪大学大学院工学研究科との人材育成ならびに教育における連携協力協定に基づき、社会課題解決に向けた企業と大学との活動を推進するため、社会実装を目指す大学の若手研究者と、研究シーズを求める企業の技術者が共創を目指す取組みを実施した。

・大阪大学大学院工学研究科×大阪科学技術センター連携協力トライアル(OSTEC 講演会特別編)の実施

「世界を変える最先端テクノロジーセミナー2025 ～社会実装の共創パートナー探索～」

日時：2025 年 10 月 3 日 (金)

場所：大阪大学センテラスサロン

「貴金属ナノ粒子を強固に固定化する技術」

大阪大学大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻 准教授 清野 智史 氏

「海洋生分解性プラスチックの開発と海水応答による崩解制御」

大阪大学大学院工学研究科 応用化学専攻 准教授 徐 于懿 氏

「高密度プラズマを用いた金属表面・サブ表面活性化接合技術」

大阪大学大学院工学研究科 物理学系専攻 教授 大参 宏昌 氏

参加者：20 名

(2) 2026 年度事業計画

2025 年度事業計画における取組みを評価し、2026 年度事業計画を策定した。

総務事項

1. 会員の状況

賛助会員の状況 (2026年3月末)

会員総数	306社
入復会会員	7社
休退会会員	8社

2. 役員等に関する事項

今年度における役員等の異動は、次のとおりである。

(評議員)

年月日	就任	退任
2025年4月1日	西村 陽	伊藤 順司
2025年4月1日	平上 大輔	村上 英樹
2025年4月1日	重松 孝昌	辰巳砂 昌弘
2025年5月15日	伊藤 伸器	山下 嘉久
2025年5月15日	秋田 知樹	辰巳 国昭
2025年10月27日	早味 宏	西村 陽
2025年10月27日	福田 直晃	白木 敏之
2026年2月26日	湯元 昇	小林 哲彦

(理事)

年月日	就任	退任
2025年5月15日	安田 和明	杵野 由明
2025年6月18日	松下 義尚	-
2025年6月30日	-	富岡 洋光

3. 職員に関する事項

職員は1名減であり、年度末においては、47名である。

4. 役員会等に関する事項

(1) 評議員会

① 第47回評議員会 (決議の省略による) (2025年5月15日みなし決議)

(決議事項)

- ・「理事の選任」の件
- ・「評議員の選任」の件

② 第48回評議員会 (2025年6月18日開催) (オンライン・対面併用開催)

(決議事項)

- ・「2024年度貸借対照表、正味財産増減計算書等」の件
- ・「理事の選任」の件

(報告事項)

- ・「2024年度事業報告」の件
- ・「2024年度公益目的支出計画実施報告書」の件
- ・「2024年度決算におけるビル改装準備資産の積立額」の件

- ③第 49 回評議員会（決議の省略による）（2025 年 10 月 27 日みなし決議）
（決議事項）
 - ・「評議員の選任」の件
- ④第 50 回評議員会（決議の省略による）（2026 年 2 月 26 日みなし決議）
（決議事項）
 - ・「評議員の選任」の件
- ⑤第 51 回評議員会（2026 年 3 月 23 日開催）（オンライン・対面併用開催）
（決議事項）
 - ・「2026 年度事業計画書・収支予算書(案)」の件
 （報告事項）
 - ・「資金運用規則の改定」の件

(2) 理事会

- ①第 64 回理事会（決議の省略による）（2025 年 4 月 22 日みなし決議）
（決議事項）
 - ・「理事、評議員の選任を評議員会の決議の省略により執り行う」件
- ②第 65 回理事会（2025 年 6 月 2 日開催）（オンライン・対面併用開催）
（決議事項）
 - ・「2024 年度事業報告」の件
 - ・「2024 年度決算におけるビル改装準備資産の積立額」の件
 - ・「2024 年度貸借対照表、正味財産増減計算書等」の件
 - ・「2024 年度公益目的支出計画実施報告書」の件
 - ・「顧問の委嘱」の件
 - ・「常勤理事の報酬支給額」の件
 - ・「評議員会の招集」の件
 （報告事項）
 - ・「職務執行状況の報告」の件
- ③第 66 回理事会（決議の省略による）（2025 年 6 月 26 日みなし決議）
（決議事項）
 - ・「業務執行理事及び専務理事の選定」の件
 - ・「理事の職務権限・分担に関する規則の改定」の件
- ④第 67 回理事会（決議の省略による）（2025 年 10 月 6 日みなし決議）
（決議事項）
 - ・「評議員の選任を評議員会の決議の省略により執り行う」件
 - ・「顧問の委嘱」の件
- ⑤第 68 回理事会（決議の省略による）（2026 年 2 月 2 日みなし決議）
（決議事項）
 - ・「評議員の選任を評議員会の決議の省略により執り行う」件
- ⑥第 69 回理事会（2026 年 3 月 13 日開催）（オンライン・対面併用開催）
（決議事項）
 - ・「2026 年度事業計画書・収支予算書（案）」の件
 - ・「資金運用規則の改定」の件
 - ・「顧問の委嘱」の件
 - ・「役員賠償責任保険」の件
 - ・「評議員会の招集」の件
 （報告事項）
 - ・「職務執行状況の報告」の件

(3) 総務委員会

①第 39 回総務委員会（2025 年 5 月 28 日開催）（オンライン・対面併用開催）

（議題）

- ・ 2024 年度事業報告ならびに決算書（案）について
- ・ その他

②第 40 回総務委員会（2026 年 3 月 5 日開催）（オンライン・対面併用開催）

（議題）

- ・ 2026 年度 事業計画書・収支予算書(案)について
- ・ 資金運用規則の改定の件
- ・ その他

（附属明細書）

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書については、「事業報告の内容を補足する重要な事項」として報告対象のものはない。

以 上